

2018 京都橘大学

「地域連携型教育プログラム」実績集

(「学まち連携大学」促進事業実績集)

(2018年4月～2019年3月)



京都橘大学産学公地域連携推進機構

地域連携センター

Center for Regional Collaboration



目次：京都橘大学「地域連携型教育プログラム」実績集

I. はじめに		2
学まち取組図	山科・醍醐地域で“育ちあう・響き合う”地域連携型教育プログラム	4
II. 2018年度 京都橘大学「地域連携型教育プログラム」この1年の歩み		6
III. 「学まち連携大学」促進事業の実績		
実践例	たちろぼたちによる「こどもも大人も作って鳴らそう！楽器作りワークショップ」開催	10
	『山科ブランドリーフレット』の作成	11
	音楽を通じた交流—アウトリーチ活動	12
	げん Kids ★応援隊 活動記録	13
	英語観光案内冊子「Unexplored Kyoto Yamashina」の制作	14
	健康爽快ウォーク2018	15
	こだわり市場冊子を活用した高齢者ツーリズム企画	16
	「看護お助け隊in 醍醐中山団地」の活動	17
	腰痛改善・予防教室	18
	やましな駅前陶灯路	19
	みんないきいき幸齢教室	20
	醍醐中山団地陶灯路	21
	たちばな健康相談	22
	二葉ちゃんの落語ワークショップ	23
	こころなごみカフェ	24
	ものづくり教室	25
	学生の地域連携活動発表会「学まちAWARD」開催！	26
一覧表	その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧	27
IV. その他の地域連携型教育プログラムの実績		
実践例	若狭消防組合消防本部（福井県）での就業体験	32
	京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育を実施！	33
	南畑古墳	34
	「～磨き輝かそう大野の宝～越前おおの観光プロデュースコンテスト2018」で優秀賞受賞	35
	京都市事務事業評価サポーター活動	36
	「ポリス&カレッジin Kyoto 2018」最優秀賞受賞	37
	ビジネスプランコンテストでの受賞	38
	「インテリア・プランニング・コンペティション2018」入賞	39
	京都から発信する政策研究交流大会	40
一覧表	その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧	41
V. 公的研究費・助成金等一覧（2018年度実績）		43
VI. 協定等	自治体等との連携協力に関する協定の締結	45
VII. 教員の活動実績等	2018年度 学部・学科別活動実績 ①地域を対象とした研究活動 ②社会貢献活動	49
VIII. 広報誌「つながる」	2018年度 CONTENTS	60

京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）
（2018年4月～2019年3月）



京都橘大学産学公地域連携推進機構
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

はじめに



北村 義典
地域連携センター長

地域連携センターの実績と役割

本学では、「自立」「共生」「臨床の知」を教学理念に掲げており、特に「臨床の知」には、社会に貢献できる「実践的」な学問を身に付けた人材の育成という教育的目標が含まれています。そうした大学の方針に基づき、「京都橘大学地域連携センター」は、2014年4月に、2000年以来設置されていた「地域政策・社会連携推進センター」をより発展的に展開させ、大学全体として地域社会や地方自治体・企業・NPO法人等と様々な連携事業を展開してきました。また、各学部の教育・研究成果を社会に還元するエクステンション講座や、職業を持った人に専門的な学習の機会を提供するリカレント講座も毎年実施しています。本センターの利用は、本学学生・教職員のみならず学外からも可能であり、各種研究会や学習会の開催、また地域に関連した個別の研究にも対応しています。また、文化政策、公共政策、地域計画に関する基礎的な資料を収集、蓄積しており、産学公地域連携に関する学習の場としての活用が可能となっています。

2018年度「学まち連携大学」事業の展開

「地域連携センター」では、長年にわたり各種連携事業を支援してきており、近年では、その成果を年度毎に『地域連携実績集』として取りまとめるようにしています。こうした中、2016年度に京都市から受託した「学まち連携大学」促進事業では、以下の3つの基幹課題と、7つの教育プログラムを展開することになりました。基幹課題には「暮らしの安心・安全、健康・福祉・育ち合い」「地域振興、まちづくり」「地域文化と歴史の継承、観光振興」の3点を設定し、これらの基幹課題に沿って7つの教育プログラムを対応させています。2016年度は「立ち上げ」、2017年度は「定着化」、そして2018年度は「充実と共有」と事業を位置づけており、本年度は各学部での活動を相互に紹介することを目的とし「学まち AWARD」を実施しました。このプログラムにおいては、各学部の学生たちにより実施されてきた地域連携活動を発表・評価することで、普段は関連の少ない他学部での事業内容を共有することが可能となりました。本実績集では、そうした「学まち AWARD」の発表内容を含む「学まち連携大学」促進事業における教育プログラムを中心に編集しています。

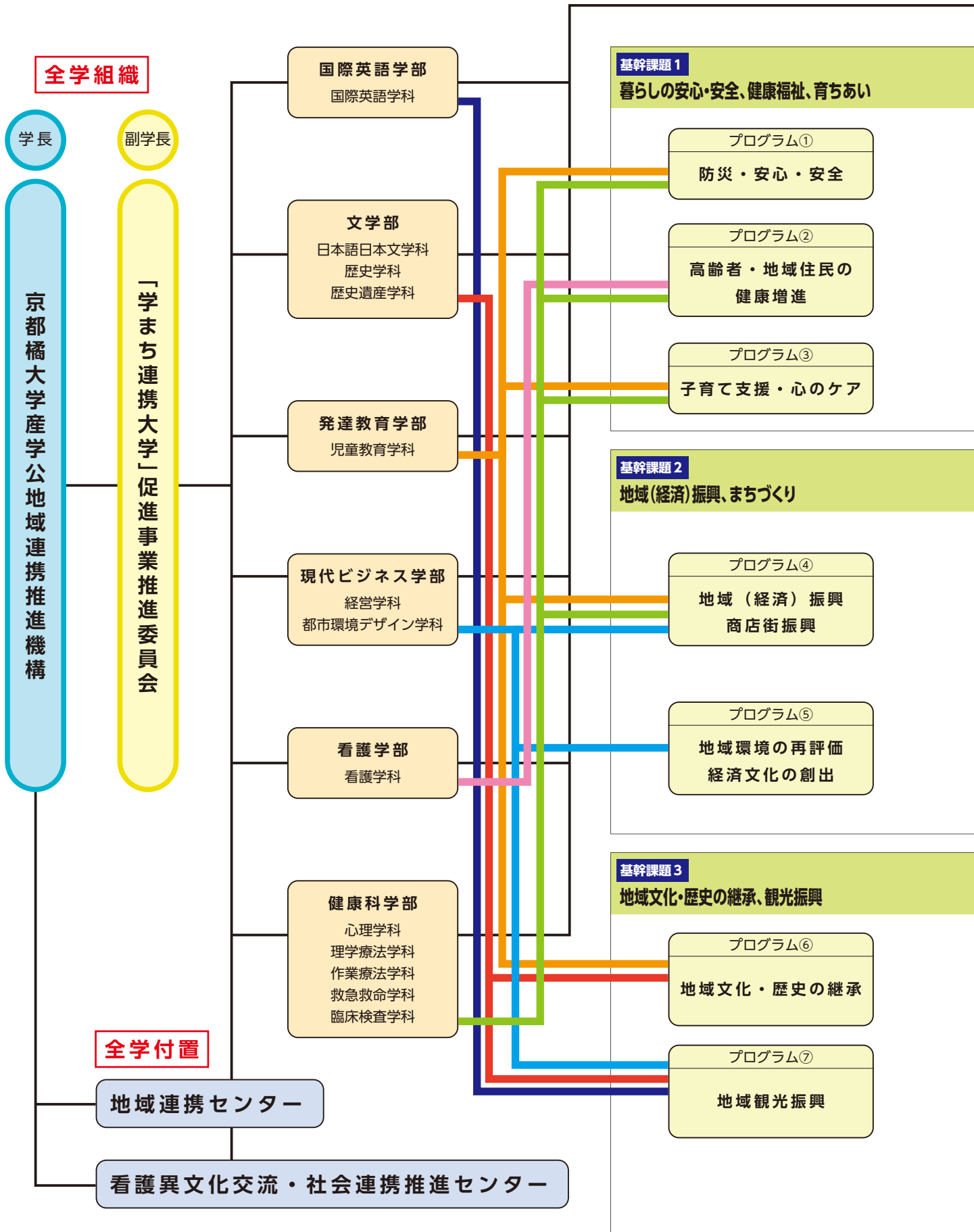
地域連携活動拠点としてのサテライトと今後の展開

2016年度末、「学まち連携大学」事業の一環として、山科駅前商店街に地域連携活動拠点としてのサテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」を設置いたしました。本学の学外拠点としては、醍醐中山団地に設置した地域連携センター分室に続く二例目のサテライトとなります。

2016年度末の活動開始以来、各学部の地域連携プログラム事業が次第に広がってきました。定員10名ほどの小さなラボではありますが、駅前商店街という気楽に使える場所柄を反映し、学内では見られない地域と連動した個性的なプログラムが実施されています。こうした実績を踏まえ、山科地域でのキャンパスタウンとも言える文化的まちづくりに貢献できる事業を進めていきたいと考えています。今後、本学での地域連携活動をより広く知っていただくための広報展開、さらには産学公連携の中でも比較的対応が弱かった産業分野との連携などへ積極的に展開していくことを検討しています。今までと同様、本学の地域連携活動にご支援をいただけますよう、今後ともよろしく願い申し上げます。

学まち取組図

山科・醍醐地域で“育ち合う・響き合う”地域連携型教育プログラム



【全学必修科目】

地域課題研究

全学部全学科において、1 回生後期に正規必修科目として地域の課題を学び、課題解決に取り組む

【例】・「乳幼児との遊び場を通しての交流体験と子育て支援の課題」<野洲市> (心理学科) // 2016 年度・35 頁 //

活動事例	『実績集』掲載				
・救急救命研究会「TURF」(救急救命学科)	2014 年度・17 頁	2015 年度・29 頁			
・「子ども守り隊～守るんジャー」(児童教育学科)	2014 年度・22 頁	2015 年度・8 頁			
・「防災リーダー養成プロジェクト」(救急救命学科)				2017 年度・9 頁	
・「たちばな健康相談」(看護学科/看護異文化交流・社会連携推進センター)	2014 年度・29 頁	2015 年度・26 頁	2016 年度・22 頁	2017 年度・21 頁	2018 年度・22 頁
・大津市老人クラブ連合会との連携事業<大津市>(看護学科)		2015 年度・18 頁	2016 年度・33 頁		
・「みんないきいき幸齢教室」(理学療法学科)		2015 年度・28 頁	2016 年度・20 頁	2017 年度・19 頁	2018 年度・20 頁
・「爽快健康ウォーク」(救急救命学科)			2016 年度・8 頁		2018 年度・15 頁
・高齢者の家庭訪問支援「お助け隊」(看護学科)			2016 年度・17 頁	2017 年度・16 頁	2018 年度・17 頁
・「腰痛予防教室」(理学療法学科)					2018 年度・18 頁
・「高齢者ものづくり教室」(作業療法学科)					2018 年度・25 頁
・「こころなごみカフェ」(心理学科)				2017 年度・23 頁	2018 年度・24 頁
・やましなスポーツ障害対策 project「スポーツリハビリテーションサークル」(理学療法学科)	2014 年度・25 頁				
・「たちばなちびっこランド」(児童教育学科)	2014 年度・28 頁				
・「げん★kids 応援隊」の活動(児童教育学科)		2015 年度・7 頁	2016 年度・13 頁	2017 年度・12 頁	2018 年度・13 頁

活動事例	『実績集』掲載				
・商業施設における市民の購買行動調査<守山市>(心理学科)	2014 年度・32 頁				
・マーケティング調査演習<草津市>(心理学科)		2015 年度・13 頁	2016 年度・34 頁	2017 年度・29 頁	
・山科ブランド紹介パンフの作成(経営学科)			2016 年度・10 頁	2017 年度・10 頁	2018 年度・11 頁
・MOMO テラスと連携した地域活性化イベント(都市環境デザイン学科・児童教育学科)				2017 年度・20 頁	
・地域連携活動学生委員会「たちらボたち」の活動(地域連携センター)					2018 年度・10 頁
・オリジナルブランド「香りっぶ」の開発と商品化(都市環境デザイン学科)	2014 年度・43 頁				
・オリジナル手帳「Techobana」の開発と商品化(都市環境デザイン学科)		2015 年度・12 頁			
・オリジナルディフューザー「Aromandarin」の開発と商品化(都市環境デザイン学科)				2017 年度・13 頁	
・オリジナルアイスクリーム「RICHIA」の開発と商品化(都市環境デザイン学科)				2017 年度・17 頁	
・「やましな駅前陶灯路」地域連携 P B L 科目	2014 年度・26 頁	2015 年度・25 頁	2016 年度・19 頁	2017 年度・18 頁	2018 年度・19 頁
・山科区との定期協議会/「山科醍醐地域教育懇話会」の設置(産学公地域連携推進機構)	2014 年度・35 頁	2015 年度・9 頁			
・開放特許を活用した地域ビジネス創生 PBL(経営学科)		2015 年度・19 頁	2016 年度・21 頁		
・「熊野再発見プロジェクト」<那智勝浦町>(都市環境デザイン学科)		2015 年度・22 頁	2016 年度・39 頁	2017 年度・33 頁	
・やましなガイド「やましなっぶ」の作成(都市環境デザイン学科)			2016 年度・18 頁		
・「ルシオール・アート・キッズ・フェスティバル」<守山市>(都市環境デザイン学科)			2016 年度・38 頁		

活動事例	『実績集』掲載				
・文化財防火訓練(歴史遺産学科)	2014 年度・40 頁				
・京都世界遺産 PBL「総本山醍醐寺プロジェクト」(歴史遺産学科)		2015 年度・10 頁	2016 年度・32 頁		
・地域文化ホールとの連携による「文化芸術による地域貢献プロジェクト」(都市環境デザイン学科)			2016 年度・24 頁		
・醍醐中山団地での陶灯路(都市環境デザイン学科)					2018 年度・21 頁
・「桂二葉ちゃんの落語ワークショップ」(日本語日本文学科)					2018 年度・23 頁
・「音楽のアウトリーチ活動」(児童教育学科)			2016 年度・10 頁	2017 年度・11 頁	2018 年度・12 頁
・「狂言とワークショップの夕べ」(日本語日本文学科)				2017 年度・22 頁	
・駅ナカアートプロジェクト(都市環境デザイン学科)	2014 年度・46 頁			2017 年度・31 頁	
・「京の七夕」参加者への書道パフォーマンス(日本語日本文科「書道コース」)			2016 年度・26 頁		
・「草津まちイルミ」での灯りの創作<草津市>(都市環境デザイン学科)			2016 年度・36 頁		
・英語版「山科ガイド」制作(国際英語学科)					2018 年度・14 頁
・「こだわ市場」の制作と洛和会連携ツーリズム企画(都市環境デザイン学科)	2014 年度・44 頁	2015 年度・11 頁	2016 年度・13 頁	2017 年度・15 頁	2018 年度・16 頁
・「学まち AWARD2018」による学生表彰(地域連携センター)					2018 年度・26 頁
・「醍醐中山団地活性化プロジェクト」(京都市・団地との3者協定)	2014 年度・42 頁	2015 年度・14 頁			
・駅前サテライト「たちらボ山科」の開設と学生委員会の支援			2016 年度・8 頁	2017 年度・8 頁	
・認知高齢者家族のための「いちごカフェ」(看護異文化交流・社会連携推進センター)	2014 年度・34 頁				

2018年度

京都橘大学「地域連携型教育プログラム」 この1年の歩み

2018年	4月	看護学部教員と学生が老人保健施設いわやの里で「いちごカフェ」を開催（4/23）（毎月開催）
		看護学部教員と学生による、地域の高齢者に手芸を教えていただく『はなたちばなの会』を開催（4/23）（全8回）
		株式会社ビバと教育に関する連携協定を調印（4/26）
		看護学部教員が山科区老人クラブ連合会と「たちばな楽学食堂」を本学にて開催（4/27）（全3回）
		児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が草津宿場まつり・山科子どもフェスタに参加（4/29）
		児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が草津宿場まつりに参加協力（4/29）
	5月	理学療法学科による筋肉量と骨密度の測定会を別所町自治会館にて開催（5/10）
		看護学科による「笑って歌って介護予防」を安朱学区にて開催（5/17）
		児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が学内で近隣の児童向けに昔遊びイベントを開催（5/20）
		看護学部による健康指導・測定会を山科区総合福祉会館で実施（6/2）
		京都市醍醐中山団地（京都市伏見区）で看護学部の学生が『看護学部お助け隊』として活動（6/2）
	6月	看護学部が山科区老人クラブ連合会と体力測定会を共催（6/16）
		救急救命科学学生が京都市立安朱小学校で心肺蘇生の講習を実施（6/19）
		看護学科2回生がプライマリケア実習Ⅰの実習として、山科区老人クラブ連合会と共催で体力測定を学内で実施（6/23）
		心理臨床センターが地域の方を対象とした子育て相談「パパとママのこころ育て広場」を開催（6/30）（毎月開催）
		現代ビジネス学部学生12名が京都市事務事業評価サポーター活動に参加（6～12月）
	7月	京都市「学まち連携大学」事業・日本語日本文学科企画「桂二葉ちゃんの落語ワークショップ」（全4回）をたちらボ山科で開催（7/2・9・23・30）
		児童教育学科佐野ゼミの学生が山科区のももの木学園にて「音楽のアウトリーチ活動」を実施（7/9）
		鳥取県と就職支援に関する協定を締結（7/10）
		京都府と就職支援に関する協定を締結（7/14）
看護異文化交流・社会連携推進センターによる健康イベント「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」を開催（7/14）		
8月	たちらボ山科学生委員会（たちらボたち）が山科“きずな”支援事業「楽器作りワークショップ」（全3回）を香東園やましなで開催（8/4・8・21）	
	都市環境デザイン学科福井ゼミが「越前おおのプロデュースコンテスト2018」で優秀賞を受賞（8/8）	
	都市環境デザイン学科まちづくり研究会が醍醐中山団地にて清水焼絵付け教室を開催（8/18）	
	児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が近隣自治会の地藏盆に参加（8/18・19）	
	都市環境デザイン学科の学生12名が和歌山県那智勝浦町でのインターンシップ研修に参加（8/29～9/6）	
9月	理学療法学科の教員が滋賀県野洲市の高齢者を対象とした健康調査・測定会を実施（9/3～9/7）	
	看護学科の次世代育成看護研究会が山科“きずな”支援事業「妊娠期から始める子育て支援 in たちらボ山科」をスタート（9/8）	
	看護学部教員と学生が大津市老人クラブ連合会と連携で高齢者を対象とした体力測定記録を実施（9/20和邇 10/17皇子が丘 11/28瀬田）	
	心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地にて開催（9/27）	
	理学療法学科学生による「みんないきいき幸齢教室」を醍醐中山団地で実施（9/29）	

10月	児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が草津市大路区民まつりに参加 (10/7)	
	児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が「山科区保育園まつり&子育て応援フェア」に参加 (10/13)	
	本学と山科区役所、清水焼団地協同組合、自治会、老人クラブなどで組織する実行委員会による「第11回やましな駅前陶灯路」を開催 (10/13)	
	「第4回 福原ビジネスプランコンテスト」で現代ビジネス学部学生2名が審査員特別賞を受賞 (10/17)	
	看護学科が大学祭にて地域住民対象の健康イベント「たちばな健康相談」開催 (10/20・21)	
	児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が大学祭にて「ちびっこランド」を実施 (10/20・21)	
	心理学科学生が「マーケティング調査実習」で草津駅東口にて来街者の調査を実施 (10/27)	
	第11・12回橋セッション「学まち AWARD」を開催 (10/31・11/14) (全学科から学生による地域での学びを発表)	
11月	京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育を実施 (11/1)	
	都市環境デザイン学科まちづくり研究会が醍醐中山団地にて「醍醐中山団地陶灯路」を開催 (11/3)	
	たちらボ山科学生委員会(たちらボたち)が山科商店会イベント「軒下バザール」に出店参加 (11/4)	
	都市環境デザイン学科の谷口ゼミと介護施設・洛和ホームライフ音羽との共同企画「高齢者向けツアーリズム」を実施 (11/10)	
	現代ビジネス学部の学生が「テクノ愛 2018」(大学の部)で健闘賞を受賞 (11/23)	
	ふれあい山科区民まつりで、看護学科教員が測定会を実施。本学と連携協定を締結する和歌山県那智勝浦町がまぐろのピザ「まぐろリータ」の模擬店を出店参加 (11/23)	
	「ボリス&カレッジ in KYOTO 2018」で都市環境デザイン学科の小暮ゼミが最優秀賞を受賞 (11/24)	
	救急救命学科による「爽快健康ウォーク 2018」を開催 (11/24)	
京都市醍醐中山団地(京都市伏見区)で看護学部の学生が「看護学部お助け隊」として活動 (11/24)		
12月	理学療法学科学生による「みんないきいき幸齢教室」を醍醐中山団地で実施 (12/1)	
	都市環境デザイン学科北村ゼミの学生が「インテリア・プランニング・コンペティション 2018」で入賞 (12/1)	
	作業療法学科による「ものづくり教室」を本学で開催 (12/1)	
	心理学科の学生が「マーケティング調査実習」で守山市モリーブにて来場者に面接調査を実施 (12/1)	
	看護学科教員が「2018年度大学地域連携サミット(キャンパスプラザ京都)」で発表参加 (12/2)	
	看護学科教員による測定・健康相談を滋賀県大津市で実施 (12/4 瀬田公園体育館・12/20 和邇体育館)	
	醍醐未生流生け花講座の学内華展を開催 (12/5～11)	
	児童教育学科佐野ゼミの学生が京都市立吉祥院小学校を訪問し「音楽のアウトリーチ活動」を実施 (12/8)	
	現代ビジネス学部の学生が第20回キャンパスベンチャーグランプリ大阪で日刊工業新聞社賞を受賞 (12/10)	
	経営学科今井ゼミが清水焼を紹介するリーフレットを制作、観光客へ配布 (12/14)	
	愛知県とU・Iターン就職促進などに係る協定を締結 (12/14)	
	総合研究センターレジリエンスプロジェクトによるコミュニティカフェ「Tachibana Café」をたちらボ山科で開催 (12/14・21・1/11・2/1)	
	心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地にて開催 (12/15)	
	都市環境デザイン学科福井ゼミが「OSAKA 観光まちづくりコンテスト」ポスターセッション部門で第一位表彰 (12/19)	
看護学部の実習で「笑顔とふれあいの家みささぎ」にて「出張たちばな健康相談」を実施 (12/20)		
心理学科「地域課題研究」の授業で山科区長 堀池雅彦氏より「京都市山科区における地域課題と取り組み」の講演 (12/25)		
2019年	1月	2018年度第1回「京都橘大学産学公連携懇話会」を開催 (1/17)
		心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地にて開催 (1/19)
		京都造形芸術大学、京都市児童館学童連盟および京都市と、「児童館等における大学生等職業体験事業」に係る協定を締結 (1/21)

2019年	1月	都市環境デザイン学科木下達文教授と4回生がオリジナルバームクーヘン開発をスタート (1/22)
		看護異文化交流・社会連携推進センターによる健康イベント「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」を開催 (1/26)
		作業療法学科による「ものづくり教室」を開催 (1/26)
		看護学部の次世代育成看護研究会が子育てカフェ“ふらり”講演会の第1回をアスニー山科にて開催 (1/27)
	2月	一般社団法人山科経済同友会が地域の文化振興のために主催する「山科夢舞台」に本学の京炎そでふれ部・裏千家茶道部が参加 (2/3) (山科区内の大学と高等学校が実行委員会を組織し、本学学生が実行委員長を務める)
		児童教育学科のボランティア団体げん Kids ★応援隊が「京都是ぐくみ憲章実践推進者表彰」で「はぐくみアクション賞」を受賞 (2/5)
		「京都駅大階段駆け上がり大会」(KBS 京都主催) に和歌山県那智勝浦町と京都橘大学との共同チームが参加 (2/23)
		三重県と就職支援に関する協定を締結 (2/ 未予定)
		都市環境デザイン学科の谷口ゼミの学生が学生目線で京都の「こだわり」を持った店を紹介した冊子『こだわり市場』を発刊 (2/ 未予定)
	3月	看護学部の次世代育成看護研究会が子育てカフェ“ふらり”講演会の第2回をアスニー山科にて開催 (3/3)
		都市環境デザイン学科の北村ゼミが国際コンペ「ショーモン国際ガーデンフェスティバルコンペティション 2019」で入賞、現地で作品制作 (3/12 ~ 26)
		本学と京都薬科大学が「教育研究協力に関する包括協定」と「合同多職種連携教育実施に関する覚書」を締結 (3/18)
		都市環境デザイン学科の河野 (良) ゼミが「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト 2019」に出展 (京都市営地下鉄栂辻駅) (3/28 ~ 5/31)
		国際英語学科学生が英語版山科観光ガイドと冊子を作成 (3/ 未予定)
		「歩くまち・京都フォーラム」との連携による「京都市公共交通利用促進 PBL」が新入生向けパンフレットを作成 (3/ 未)

Ⅲ

「学まち連携大学」 促進事業の実績



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

高齢者と児童の世代間交流企画

たちラボたちによる「こどもも大人も作って鳴らそう！楽器作りワークショップ」開催

京都橘大学地域連携センター公認学生団体「たちラボたち」+こども達+お年寄り

「たちラボたち」とは

地域連携センター公認学生団体「たちラボたち」は、山科区内での地域連携活動に関心を持つさまざまな学部学科から集まった学生による団体で、2019年1月現在6名が在席しています。活動2年目となる今年も数々の地域連携活動を展開しましたが、最も大きな企画として、8月に「こどもも大人も作って鳴らそう！楽器作りワークショップ」を開催しました。

ワークショップの概要

このワークショップは、地域に住むお年寄りと子どもたちの交流を目的に学生たちが企画したもので、山科区の「山科“きずな”支援事業」に採択いただきました。京都市山階児童館、特別養護老人ホーム香東園やましな、NPO法人音の風の方のご協力を得て、8月4日（土）、8日（木）、21日（火）の計3回実施、のべ72名の方にご参加いただきました。

講師の指導のもと、紙皿タンバリンやストローチャルメラなどの楽器を作り、その楽器を用いて演奏し、歌を歌いました。その中で学生たちは世代間の橋渡し役となり、高齢者と児童の交流をサポートしました。

ワークショップを終えて

実施後のアンケートでは、「とても楽しかった」と「楽しかった」の合計が96%となり、多くの方に楽しんでいただくことができました。また、高齢者と児童はお互いに交流の場を求めているものの、山科区内に世代間交流を目的とした取組はまだまだ少ないことがわかりました。

今回の取組では、全般的なイベント運営のノウハウに加え、高齢者と児童に配慮したレイアウト作り、時間配分、盛り上げるための工夫など、それぞれの世代の視点に立ったアイデアが求められたため、学生たちは多くのことを学びました。

今回の企画を通して得た、関係機関の方々とのつながりや運営ノウハウを、上回生から下回生へ引継ぎ、次年度以降も継続していきたいと考えています。

「たちラボたち」はまだまだメンバーを募集中です。少しでも関心のある方は、毎週月・木の昼休みに清風館 2F の地域連携センターを覗いてみてください。



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

京焼・清水焼ならびに清水焼団地に関して

『山科ブランドリーフレット』の作成

現代ビジネス学部経営学科 今井まりなゼミ学生

活動の概要と取り組みの経緯

今井ゼミ 3 回生の 16 名は、地域資源の活用をつうじた山科地域の活性化に向けた活動を行ってきました。地域資源とは、1 地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物や鉱工業品、2 地域の特産物である鉱工業品の生産に係る技術、3 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源として相当程度認識されているものの 3 タイプに分類されていますが、今回は、京焼・清水焼、ならびにその窯元をはじめとする陶磁器の関連業者が集積している「清水焼団地」の認知度を向上させるために、主に 20 代の若者に対するリーフレットの作成、配布ならびにその効果の測定を行いました。効果の測定結果を分析したところ、リーフレットによって京焼・清水焼と清水焼団地に関する興味度と知識が向上したことを確認できました。

活動内容

以下の順序でリーフレットの制作、配布、効果の測定を行いました。

- 1 清水焼の制作体験を行う。また、清水焼団地協同組合事務局や京都市役所、作家、卸売業者など訪問し、京焼・清水焼の特徴や清水焼団地について聞き取りを行った。
- 2 1 に基づいて、リーフレットのコア・ターゲットを明確にした（検討の結果、主に 20 代の若者に決定）。
- 3 リーフレットの内容、レイアウトを決定しリーフレットを制作した。
- 4 完成したリーフレットを印刷し、京都駅やターゲットとなる若者が立ち寄る場所で配布した。
- 5 ターゲットとなる若者にあたる受講生を対象にリーフレットの効果を測るための質問調査を行い、その結果の分析を行った。

活動の成果

今回の活動はプロジェクトメンバー全員で実施しましたが、主導する役割を分担し、統括チーム（プロジェクトの目的やリーフレットの配布先の決定、リーフレットの効果測定方法を決定）、デザイン・チーム（デザインソフトの使用法の勉強、リーフレットのデザイン、印刷会社とのやり取り）、現地調査チーム（リーフレットのターゲット設定、関係者へのインタビュー、掲載内容の作成）の 3 チームに分けて実施しました。各チームは、自チームの担当する役割に責任をもって取り組み、限られた時間の中でリーフレットを完成させるという共通目標に向かって全員で作業を行ってきました。

リーフレット制作を行う中で、メンバーは京焼・清水焼の生産者である窯元の方々や清水焼団地の事務局へのアポイントや聞き取り調査から、リーフレットのコンテンツの決定、さらには、イラストレーターやフォトショップを用いてリーフレットを一からデザインし、その成果を、学生自らで配布し、その効果の測定を行うといった経験を積むことができました。プロジェクトメンバーは、プロジェクト開始時は進め方の理解が不十分なところもあり、調査も慣れない様子で行っていましたが、プロジェクトを進めるにつれ、地域の課題やプロジェクトの意義への理解も深まり、調査でも自信をもって社会人の方々と接することができるようになっていきました。一連のプロセスを通じ、チームでの課題解決の経験、ならびにリーフレットを作成する一連のプロセスを最後までやり抜いた経験が、メンバーにとってのなにより



リーフレット（外側）



リーフレット（内側）

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

山科区・南区の子どもたちと

音楽を通じた交流—アウトリーチ活動

発達教育学部児童教育学科 3 回生 佐野仁美ゼミ

活動のねらいと内容

音楽に関心を持つ学生が集まる佐野ゼミでは、出張コンサートを始めて7年目になります。ゼミには児童コースと幼児コースの学生が混在しており、活動の主な目的は、児童コースの学生が就学以前の子どもの様子や保育の環境を見たり、幼児コースの学生が小学生と触れ合ったりすることにより、子どもの成長を一貫して捉える眼を養うことです。計画から子ども向けの曲の選択、楽器に対応した編曲まですべて学生が自主的に行っており、学生の音楽的成長を促すこともねらいの一つです。

2018 年度の活動

昨年度と同じく、本年度も7月9日に山科区のももの木子ども園で七夕音楽会、12月8日に南区の京都市立吉祥院小学校の土曜学級でウィンター・コンサートを行いました。本年度は全員でトーンチャイムの演奏を行った他、管楽器とピアノのアンサンブル、子どもたちと一緒に歌ったり、踊ったりするプログラムを組みました。ももの木子ども園園長の紺谷典子先生からは「子どもたちにも親しみのあるディズニーやジブリの曲、クラシックのすてきなメロディーの曲もあり、また、最後には《さんぼ》の歌と振付を教えていただき、歌って踊って、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。手作りのペンダントを頂いたこともうれしくて、みんな大事に胸につけて帰りました」とのお便りをいただきました。

学生の学び

3回生は実習が多く、全員揃っての練習時間の確保が難しい上に、今年度前期の取り組みでは、大雨のため直前練習が中止になるというハプニングにも見舞われました。活動終了後の学生自身の振り返りでは、子どもたちが喜んで聴いてくれたことへの感謝とともに、もっと良い演奏ができたはずだったとの反省も見られました。そして後期の小学校における活動では、小学生という子どもの発達段階を考慮して、演奏に加えてイントロクイズを入れたり、体育館で一緒にダンスをしたりしました。幼児コースの学生からは、「当初小学生との関わりの難しさを感じていたが、聞くだけでなく一緒に体を動かすことは共通して子どもが好きなことなのかと改めて感じ、みんな一体となって最後は楽しめました。他にはできないと思うので経験できてよかったです」との感想が述べられ、学生にとって子どもの成長を一貫して捉える重要性を実感できる得がたい経験であったことがわかります。その他、「演奏する側は、お客さんにどうしたら楽しんでもらえるのかを考えるのが大切だと今回のアウトリーチで分かりました」という意見は、回を重ねてこそ得られた学びでしょう。来年度の学生にもしっかりと引き継いでいきたいと思えます。



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

地域に密着した活気あふれる活動をめざす

げん Kids ★応援隊 活動記録

発達教育学部児童教育学会有志

※げん Kids ★応援隊の活動は、平成 30 年度京都市はぐくみ憲章「はぐくみアクション賞」の表彰を受けました。

山科・醍醐地域に密着した活動を展開する

「げん Kids ★応援隊」は 2008 年に結成され、今年度で 10 年目の活動となりました。運動遊びや工作教室などを通して、地域のひととの交流を深めるとともに、企画の運営や子どもとの関わり方などを学生たちは学んでいます。今年度は、地域の団体から多くの依頼をいただき、近隣の保育園や商業施設のイベントなどにも参加しました。

2018 年

- 5 月 昔遊び企画（竹とんぼ・びゅんびゅんごま・割りばし鉄砲など）
- 7 月 水遊び企画（プール・水風船・シャボン玉づくりなど）、勸修小学校夏祭り
- 8 月 大宅おやじの会地蔵盆、地蔵盆（大宅五反田町・大宅辻脇町・大宅坂ノ辻町）
- 9 月 山科団地祭り、勸修ふれあいの集い
- 10 月 山科区保育園まつり、赤ちゃんフェア、小野バザー、ふれあいの集い
- 11 月 山科おやじフェスタ、下京子どもまつり、スポーツ企画
- 12 月 クリスマス企画（ツリー作り・リース作り・ビンゴ）

2019 年

- 1 月 岩屋保育園 運動遊び、モモテラスイベント
- 2 月 学内スペシャルイベント（すごろく）



120 名のメンバーとともに



地蔵盆での活動



クリスマス企画

◆学内企画

学内企画は季節にあった子どもたちが楽しめるような企画を発案し運営しています。今年度は、昔遊び、運動場での水遊び、スポーツ遊び、クリスマスツリーなどの工作企画を実施しました。学生たちは、子どもたちが普段なかなか体験できないような活動を考え、楽しんでもらえるように工夫しています。

◆地域の行事への参加

多くの地域の方々から依頼を頂き、さまざまなイベントに参加しました。毎年参加させてもらっている地蔵盆や新たに参加した企画もありました。今後は、げん kids ★応援隊にしかできない活動を考えていきたいと思っています。

子どもが楽しいと実感できる企画づくりをめざす

今年度のげん Kids ★応援隊は 120 人ものメンバーが集まりました。いくつかのグループに分かれて、子どもが楽しいと実感できるような企画を考えました。活動を展開する中で悩むこともあったようですが、子どもの楽しそうな姿や保護者・地域の方からの温かい声、そして何よりもいっしょに活動するメンバーに支えられて乗り越えてきたと思います。

子どもの姿を念頭に置いて企画を立案し運営する力がついてきたことが、学生たちの大きな成長でした。

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

日本に滞在している外国人および外国人観光客を対象とした

英語観光案内冊子「Unexplored Kyoto Yamashina」の制作

英語コミュニケーション学科 Community Translation Program
アンガス ノーマンゼミ学生

活動の概要と取り組みの経緯

昨今大学では「グローバル化」と「COC (Center of Community)」の推進が求められています。本学国際英語学部では、「英語の現場」、「英語の実際」の体験を目的とした「Community Translation Program」を立ち上げました。年々増加している、京都を訪れるインバウンドの外国人観光客および日本に滞在中の外国人のニーズに応じて、「穴場の存在」である山科地域を取り上げ、その魅力を伝えたいというのが企画の原点となっています。

活動内容

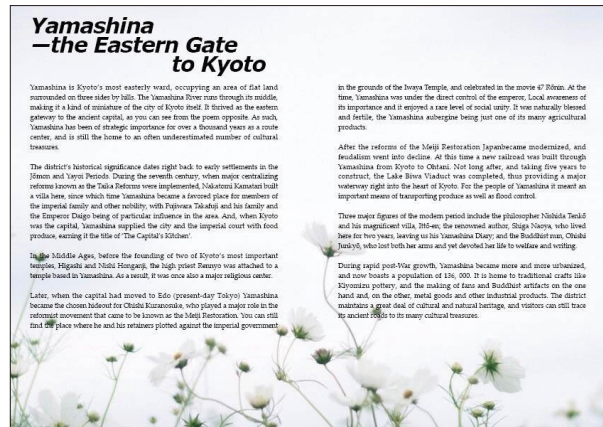
「CTP (Community Translation Program)」の授業3つに段階的に組み、コミュニティ翻訳の概要、さまざまな分野の練習、フィールドワークとPBLを通して、成果物として英語による観光案内冊子を制作しました。コンテンツとして、「観光の目玉」となる寺院や神社および山科疎水と「食」を取り上げ、それらに関するフィールドワークを行い、そこで得た情報については外国人の視点を入れながら掲載するものを選び、英語で原稿を作りました。編集と写真撮影およびデザインを担当する学生を決め、モデルには本学科の学生と留学生を起用しました。

活動成果

2018年3月に「Unexplored Kyoto Yamashina」という32ページのフルカラーの英語冊子7,000冊ができあがり、学内や、協定を締結している海外の大学を含む学外にも幅広く配布しました。

学生にとっては、印刷物ができあがる達成感はもちろんのこと、制作の過程で学んだこと、感じたことは、今後翻訳に取り組むうえで大きな収穫となりました。

この企画によって山科地域を活気づけることができれば、この活動はより一層意義のあるものになると感じています。今後は3回生のゼミの学生を中心に、パート2「Deeper into Yamashina」を発行し、その後、両冊子をインターネット上でアクセスできるようにする予定です。



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

救急救命学科主催イベント

健康爽快ウォーク 2018

健康科学部救急救命学科学生

概要

本イベントは、京都市「学まち連携大学」促進事業の一環として山科区民の健康増進のため救急救命学科が主催して行ったものです。安朱小学校（山科区）から、毘沙門堂、三井寺を経由し大津港までの全長約7kmを、約40名の参加者と共にウォーキングを実施しました。イベントの始まりと終わりに学生によるメディカルチェック、またウォーキング中はAEDや応急手当の器材を持った学生が同行するなど、学科の特徴を活かして、参加者の健康意識を促したり、安全なイベント運営に努めました。

目的

本イベントは、参加者の健康増進及び地域住民とのふれ合いを通して、学生のコミュニケーション能力の向上を目的として企画しました。

成果

当日は天候に恵まれ、ウォーキングにはちょうど良い気温と陽ざしのもとイベントを実施できました。紅葉真っ盛りということもあり、地面に敷き詰められた紅葉など風情を感じる多くの情景を見ることもでき、参加者の目を楽しませていました。また三井寺ではご住職により三井寺の成り立ちや特徴についてご高話を拝聴しました。その後に境内を拝観したが、歴史や由来を知ったうえで各スポットを拝観し、より一層充実した時間にすることができました。

スタート地点とゴール地点では、学生によるメディカルチェック（血圧、脈拍数測定）を実施しました。救急救命学科は救急救命士を養成する学科であり、医療従事者として心肺蘇生法の普及や、市民への健康に関する啓発活動に力を入れています。突然の心停止の原因となる心筋梗塞や体に麻痺が出現する脳梗塞など、いわゆる生活習慣病の多くは日頃からの健康意識の改善により「予防」することが可能です。イベント終了後参加者から「このイベントが自分の健康を改めて考える良いきっかけとなった」といったお言葉を頂くことができ、参加者の健康増進という目的は十分達成できたと思われま

す。また救急救命学科学生の多くは、卒業後救急救命士として救急業務に従事することとなりますが、救急救命士として最も重要なスキルの一つがコミュニケーション能力です。救急現場は一刻を争う現場であり、限られた時間のなかでいかに傷病者やその家族と信頼関係を築けるかが、円滑な救急活動へとつながる鍵となります。特に超高齢社会を迎えた今、救急要請のほとんどは高齢者対応案件です。本イベントのなかで、メディカルチェック、また救護要員として一緒になってウォーキングを行うことを通して、学生はより良いコミュニケーションの取り方を学ぶことができたとと言えます。

多くの方々の協力のもと、無事安全に本イベントを実施することができました。時間配分、イベント全体のコーディネーションなど課題も多く見つけましたが、それらを改善し救急救命学科として今後ともより一層の地域貢献を行ってきたいと考えています。



紅葉真っただ中でのウォーキング



集合写真（ゴール地点にて）

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

超高齢社会を見据えた産学連携事業

こだわり市場冊子を活用した高齢者ツーリズム企画

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科谷口知司ゼミ×
洛和会ヘルスケアシステム介護事業部

「こだわり市場」冊子を新たな展開で活用する。

「こだわり市場」の活動は世界的な観光都市である京都にも、まだあまり知られていない名店がたくさんあり、それらを“こだわり”という観点から発掘し、広く紹介するという活動です。その活動の中核となる冊子制作については、過去毎年度一冊のペースで5冊発刊し、主に京都を訪れる観光客の皆さんに活用されてきました。今年度は、この「こだわり市場」の活動を地域の高齢者施設の入居者の皆さん方のツアーに適用するという、新たな展開を迎えました。

繋ぐ、広がる、地域の輪、施設高齢者向けツーリズム。

超高齢社会を見据え、高齢者が「住み慣れた地域での自分らしい暮らし」ができるように、「地域包括ケア」の理念に基づいた、地域連携事業として行われました。

観光ツアーの企画・体験を通じて、高齢者と若年層の学生が交流を深め、高齢者は「生きがいづくり」の実感を得、学生は今後の超高齢社会での地域と高齢者との関わりを学ぶきっかけ作りを図ります。

地域の医療、介護、教育（若年層）、高齢者（住民）が連携することで、地域コミュニティ強化の1つのモデルケースを目指しました。

綿密な事前準備を経てツーリズムの実施へ。

第一回目は2018年3月18日に実施（京都市東山区を散策）し、その後も谷口ゼミと洛和会ヘルスケアシステム介護事業部、さらには訪問施設、店舗などとの間で、ツアーがより快適で安全なものになるように何度も協議し、10月22日の職場体験を経て、11月10日に第二回目を実施しました。第二回目の実施コースは、中京区を中心に、「こだわり市場」に掲載された店舗での買い物、万華鏡ミュージアムで万華鏡の手作り体験、京都文化博物館内の飲食店での軽食などを含め、充実した内容で、参加者の皆さんたちから高い評価を頂きました。引き続き第三回目の実施に向けて様々な検討を進めています。

ツアーの詳細については洛和会ヘルスケアシステムのホームページ（www.rakuwa.or.jp/kaigo/tourism/index.html）に紹介されています。



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

醍醐中山団地に住民を対象に

「看護お助け隊 in 醍醐中山団地」の活動

看護学部 2 回生 3 回生プライマリケア実習×醍醐中山団地町内連合会

地域の住民も喜び学生の学びも得られる看護学実習の在り方

看護の対象となる人々の生活に視点をおくことは、看護を行う上で、非常に重要です。しかし、世代間交流が少ない近年の学生は、高齢者の生活をイメージすることが難しく、入院患者への援助を考える時の障害となっている。そこで、醍醐中山団地の住民の協力を得ながら、高齢者の生活を知る実習を計画しました。

住民にとっては、日々の生活上の困り事が解決し、普段接する機会の少ない若い世代との交流を通じて生活のハリを得ることができます。また、学生にとっては、実際にお宅を訪れることで、医療・介護・行政・ご近所付き合いなど、色々な形で存在している社会の仕組みから漏れてしまうちょっとした困りごとを具体的に知ることができるため、在宅医療が進むなか、退院支援をするための知識としてとても学びの多い実習となり、双方にとってメリットがあります。

活動については、6月2日（土）に3回生担当のプライマリケア実習Ⅱ、11月24日（土）に2回生担当のプライマリケア実習Ⅰにて実施しました。

事前に棟長の方々により実習協力者と作業内容を募り、その作業内容に合わせ学生配置と事前学習を実施しました。協力者は30世帯となり、1世代に学生を3～4名配置し作業を行いながら普段の買い物や食事など生活の様々な話をすることができました。学生が学びになったのはもちろんの事、住民の方は普段若い人と話をする機会がなかった協力者も楽しい時間が過ごせたと喜んでいました。住民の方も喜び学生の学びも得られる持続性のある看護学実習の方向性が導き出せたと考えられた。



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

腰痛者を笑顔に

腰痛改善・予防教室

健康科学部理学療法学科スポーツ・運動器コース教員 + 学生×山科区

活動目的

今年度の本事業は、京都市深草・醍醐地域介護予防推進センターと共同し、伏見区役所醍醐支所にて開催しました。活動目的は、京都市在住の腰痛者を対象に、腰痛に関する知識の伝達および腰痛体操を実施し、効果を検証する介入研究として取り組みました。本活動は、腰痛改善・予防教室への参加によって、参加者の腰痛の軽減と身体・精神心理機能の改善を目的としています。

腰痛者を笑顔にする活動内容

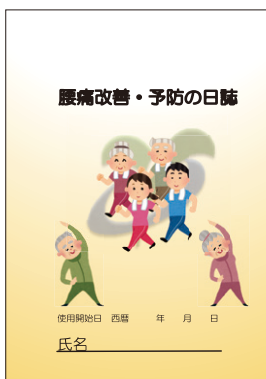
腰痛改善・予防教室は、健康科学部理学療法学科スポーツ・運動器コース教員と学生によって、3ヶ月を1クールとし、2週に1回の頻度で計6回実施しました。なお、参加者の述べ人数は160人程度でした。

内容は、知識の提供として講義を行い、その後体操を実施しました。講義のテーマは、痛みの生理学的機序、疼痛を抑制する脳の仕組み、脊柱の発達と加齢変化、腰痛の発生活因と対応策を伝え、知識によって腰痛が軽減できることを強調しました。体操は、体幹筋の筋活動を高める方法を指導しました。また、参加者の方々が楽しく体を動かすことができるような体操も毎回実施しました。さらに、活動量の増大とセルフマネジメント能力を高めることを目的とした日誌を作成し、参加者の方々に歩数や生活状況について記録してもらいました。効果の検証については、初回と最終回に痛みの程度、身体機能、精神・心理機能について調査し、比較しました。

これらの活動によって、参加者の方々の疼痛の程度が軽減し、疼痛に関連した心理機能が改善することが明らかになりました。また、参加者の方々から高い満足度が得られました。実際に、暗い表情をしていた参加者の方々が3ヶ月後にはとても素敵な笑顔に変化したことを実感しました。今後も地域の方々の健康増進のため、腰痛改善・予防教室を継続開催したいと思います。

腰痛者を笑顔にする活動内容

参加した学生は、腰痛を有する高齢者に対して体力測定を実施し、腰痛に配慮しながら測定する難しさを体験しました。また、高齢者の方々と話をする機会が多かったことから、話し方や話題提供など、今後の実習や臨床に役立つ能力を高めることができました。その他、学生は毎回の腰痛教室の最後に1分間スピーチを行いました。自己紹介からはじまり、地元の名産や実体験、クラブ活動の紹介など、わかりやすく楽しく話をすることができました。これは参加者の方々にも、とても好評であり、和やかな雰囲気を作るのに大きく貢献したと思われます。この腰痛改善・予防教室は、講義や体操の内容だけではなく、大学生と高齢者の方々が触れ合うことで高齢者の方々の心理機能が改善した可能性もあり、大学生の力が地域社会の活性化につながる取り組みであったと思われます。



日誌の記入方法	
日付	10月5日 月曜日
身体の様子	<input checked="" type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪い
体操の実施	<input checked="" type="checkbox"/> した <input type="checkbox"/> してない
今日の歩数	6850 歩
今日の気分	<input checked="" type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> イライラ
今日の疲れ	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ぐったり
今日の主な行動	友達と紅葉を見に嵐山寺に行った
自分へのねぎらい	痛みを忘れて歩けることがわかった

！ 日誌の効果は、自分自身5運動を継続しているこ6に気づき、**自信**をつけるこ65す。また、痛みが軽か1た6きの活動を振り返るこ6がらき、疼痛に対する**セルフマネジメント**に役立ちます。

！ 自分を8さらい、自分を肯定し、前向きに現実を捉えるこ65、**心のストレスが軽減**し、痛みが軽減する効果があります。



講義の様子

参加者の腰痛に対するセルフマネジメント能力を高めることを目的に作成した腰痛予防・改善の日誌

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

伝統工芸を身近な存在に

やましな駅前陶灯路

京都橘大学×京都シティ開発(株)+清水焼団地協同組合+山科区役所+
地元自治連合会+山科区老人クラブ連合会+駅前商店会

「新しい世界」を清水焼と和蠟燭で表現

2018年で11回目の開催となった灯りイベント「やましな駅前陶灯路(とうとうろ)」は、過去の陶灯路の演出にならって、京都の伝統工芸である京・和蠟燭を、地元産業である清水焼陶器に灯し、幻想的な景色を作り出しました。これまでのやましな駅前陶灯路の伝統を守りつつも、第11回目を迎えたこともあり、今回は新たな陶灯路にしようとする新しい演出も企画しました。その一環として、初めて華道月輪末生流とのコラボレーションを行い、「華の世界」のゾーンを設けました。本イベントでは、例年通り、本学以外にも京都シティ開発(株)、清水焼団地協同組合、山科区役所、地元自治連合会、山科区老人クラブ連合会、駅前商店街などが連携し、伝統産業の振興や地域の活性化に大きく貢献しています。

やましな駅前陶灯路を市民にとって身近なイベントに

山科駅前の地域住民にとっては認知度が高まってきた陶灯路ではありますが、京都市民にとってはまだまだ馴染みのあるイベントとはいえません。そのため、本年度はSNS上での発信を強化する一方で、山科駅前でのゆるキャラの出演時間やイベントPR時間を増加させることにより、当日にイベントを観覧しない市民に対しての周知にも力を入れました。また、当日アンケート回答者に対しては山科ゆかりのゆるキャラや陶灯路がデザインされたトートバックを配布し、利用してもらうことで次年度以降のイベントも周知できるように工夫を行なっています。

次の世代につなぐ

2016年度から様々な周知イベントや商品開発等を行い、PR活動を行いましたが、その中で学生たちが強く思うようになったことは、地域の行事として定着したやましな駅前陶灯路の灯りを次世代にもつないでいきたいという強い思いでした。この間、やましな駅前陶灯路に参加する本学学生も増えてきましたが、人数を増やすだけでなく、思いも継承できるように次年度も準備を行い、地域住民、産業界、行政等と連携し開催できるように検討しています。



陶灯路の風景



陶灯路のPR活動



学生による陶灯路の企画検討風景

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

醍醐地区の高齢者を対象に

みんないきいき幸齢教室

健康科学部理学療法学科学生×醍醐中山団地

健康体操～幸せに歳をとりましょう～

「みんないきいき幸齢教室」は、理学療法学科の学生が主体となり、山科・醍醐地区の高齢者を対象にさまざまな健康体操を行っており、今年で4年目になります。本活動の目的は、健康状態に問題がなく自立して暮らすことができる期間を示す健康寿命の延伸に寄与することです。本活動の特徴は、学生が主体となり、すべての運営を学生自身が行っていることです。そのため、学生自身の行動する力、考える力を大きく養うことができる活動となっています。

今年度は9月と12月に開催し、どちらの回も学生と高齢者の方、合わせて約20名が参加しました。実施内容はストレッチ、筋力向上トレーニング、脳トレ体操などのレクリエーションを行いました。参加した全員が笑顔でいきいきとした気持ちになれました。

学生は開始時こそ緊張しておりましたが、高齢者の方々とコミュニケーションを楽しんでいました。これは、学生たちが高齢者の方々とコミュニケーション時の注意点について事前に確認していた成果だと思えます。「声を大きくハッキリと話しかけること」、「目線の高さを合わせること」「笑顔で話すこと」などの重要性について再認識できたと思えます。また、参加者と会話することで、高齢者の実際の生活についても聴取することができました。

また、今回のいきいき幸齢教室は9月に開催したということもあり、熱中症のリスク管理について、特に注意しました。高齢者の方の身体的な特徴のひとつである喉のかわきにくさに留意し、水分補給をするように促しました。普段の講義で学んだことを実際に活かすことができ、参加した学生は大きな経験を積むことができました。

学年の枠を越えた取り組み

「みんないきいき幸齢教室」は、理学療法学科の先輩と後輩と一緒に取り組むことができる交流の場となっています。企画会議では、学年の枠にとらわれず意見を出し合い、全員でより良い活動となるように、何度も話し合いました。このような活動によって、下級生は今後の学習や実習に活かせる経験を積むことができました。また上級生にとっては、下級生の模範となる責任感をもった行動や振る舞いができるようになりました。



体操の様子



休憩中に話している様子

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

新しいイベントを創造する

醍醐中山団地陶灯路

京都橘大学×醍醐中山団地町内連合会+清水焼団地協同組合

醍醐中山団地を幻想的な空間に

2018年で2回目となった「醍醐中山団地陶灯路」は京都橘大学まちづくり研究会と醍醐中山団地町内連合会が主催し開催されました。学生や町内連合会役員のほか、醍醐中山団地全棟の地域住民約50人が協力し、中山公園や団地内の道路に並んだ約3500個の清水焼の陶器に火を浮かべ、灯りを照らしました。また、本学吹奏楽部の演奏や近隣の保育園の先生方による和太鼓パフォーマンスが行われ、秋の夜長を彩りました。

地域住民と京都の文化が触れ合う

醍醐中山団地陶灯路は本学まちづくり研究会が公益財団法人大学コンソーシアム京都の学まちコラボ事業一般枠の採択（2017年度は文化枠）を受けて開催されたイベントです。本年度のイベントでは、陶灯路を開催する前に地域住民のみなさんと学生のつながりをつくるほか、京都の伝統産業である京焼・清水焼に親しんでもらおうと8月には醍醐中山団地にて清水焼団地協同組合所属の清水焼作家の指導を受け、さまざまな形の清水焼に彩色しアクセサリを作る「清水焼ワークショップ」を開催しました。当日は子どもから高齢者まで幅広い年齢の住民約100人が参加し、アクセサリづくりや流し素麺などを楽しみました。また、陶灯路に向けて学生と地域住民が協働で地域のクリーンアップ活動を行いました。

真の地域連携へ

本イベントは、本学と京都市と醍醐中山団地町内連合会とが地域コミュニティの活性化に寄与する取り組みを目的とした醍醐中山団地事業の一環として開催されたものですが、事業の中ではじめて全棟の住民が参加されるものとなりました。今までの醍醐中山団地事業では、本学もしくは町内連合会のどちらかが主体となり計画を練った上で、お互いが協力するという形で開催されてきましたが、本イベントでは計画の段階から協働で準備するものとなりました。今後も真の地域連携のため、醍醐中山団地事業を推進し、陶灯路を含め、地域活性化を行っていく予定です。



中山公園での陶灯路の風景



清水焼ワークショップ



吹奏楽部の演奏

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

地域住民の方々の健康づくりに

たちばな健康相談

京都橘大学看護異文化交流・社会連携推進センター：健康支援事業

地域住民の方々の健康の保持・増進を目指して

京都橘大学看護異文化交流・社会連携推進センターの健康支援事業では、『地域住民のニーズにもとづいた健康相談や生涯学習などの活動を通じて、その方々の健康を支援する』という目標のもと、種々の活動を行っています。その一環として『たちばな健康相談』や『出張たちばな健康相談』を実施しています。学部開設初年度から大学祭において実施している「たちばな健康相談」は、今年度で14回目を迎えました。また、『出張たちばな健康相談』として大学から地域へ出向いて行う健康相談も実施しています。

第14回たちばな健康相談・出張たちばな健康相談

たちばな健康相談は看護学部の教員および学生ボランティアの協力のもとに実施しています。第14回たちばな健康相談は大学祭期間に実施しており、身体計測（身長、体重、腹囲、体脂肪率）、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定、ストレスチェック、塩分チェック、健康相談などを行いました。また、出張たちばな健康相談は伏見区醍醐地区の醍醐中山団地の集会場へ出張し、健康相談を実施しました。本学は、京都市および醍醐中山団地町内連合会と地域活性に寄与する取り組みを目的として、連携協定を締結しており、看護学部として地域住民の健康の保持および増進を目的として出張たちばな健康相談の活動を展開しています。学内におけるたちばな健康相談に準じた内容を実施しました。

地域住民の意識と住民とのかかわりを通しての学生の学び

『たちばな健康相談』『出張たちばな健康相談』ともに継続して参加している方も多くなってきています。住民の方々の健康意識の高まりを感じると同時に、これからもより多くの方々に参加していただけるよう、地域住民の方々が参加したいと思えるような健康相談を実施していきたいと思っています。また、ボランティアで参加している学生にとっても学びの場として重要な意味を持っています。参加者の誘導や各種測定等を行いながら、実際の地域住民と主体的に交流することで、地域で生活する人々に対する理解が深まり、実践を通じた対人関係の構築やコミュニケーション技術の獲得および向上の場となっています。また、学外の活動への参加を通して、地域の実情を見ることにより、地域の様子や生活環境を踏まえた参加者の日々の生活を実際に理解することへつながり、健康増進に向けた具体的な支援を検討できる学びの場となっています。これからも地域住民の健康を支援できるような活動による地域の活性化と、学生の学びにつながる事業を目指したいと思います。



骨密度測定
(第14回たちばな健康相談)



脳年齢測定
(第14回たちばな健康相談)



血圧測定
(出張たちばな健康相談)

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

咄の芸をみんなで楽しく

二葉ちゃんの落語ワークショップ

お笑い好きの学生×地域住民

たちラボを活用したお稽古と発表会

山科駅近くの便利な場所にある本学サテライト「たちラボ山科」で、地域の方と楽しく行える伝統芸能は何だろうと考えて思いついたのが落語会でした。これは本学文化財学科（現歴史遺産学科）の卒業生で若手落語家として活躍している桂二葉さんが、卒業後も母校とのつながりを大事にしてくださっているからこそ行えた企画です。「二葉ちゃんの落語ワークショップ」には、地域の方々も3名が参加され、学生7名と共にお稽古に励みました。

活動の詳細

ワークショップは7月の毎月曜日に4回行いました。第1回目に小咄と『動物園』というネタを実演していただき、参加者それぞれが覚える箇所を分担しました。間に2回のお稽古を挟み、4回目にリレー形式で『動物園』または小咄の発表会を設けました。浴衣掛けの発表会は全員が出囃子と共に高座に上がって演じるというもので、落語会の雰囲気をつぶり味わいながら、奮闘努力の成果を披露してもらいました。講師からは講評の後、別のネタを一席演じていただきました。

学生それぞれの成長

昔から落語が大好きだったというおもちゃ作家さんや、フリーのアナウンサーの方、あるいはいかにも関西人らしい積極的な一般参加者とは対照的に、本学の学生たちは人前で話すのが苦手で、その克服のために参加したり、教員に強引に引っ張り込まれた人たちでした。当然、初めはなかなか言葉が出てこなかったり、アクセントがぎこちなかったりで心配でしたが、本番では高座でつまる学生もなく、みな見事に持ち場を演じ切りました。

地域の方々と交流できたことのほか、この体験が直接役立った例として、高校での教育実習で小咄をやってみたという学生がいましたが、その他の学生たちも、身近でありながら接する機会がなかった話芸の初歩的技法を習得し、プレゼンテーションを行えたことが自信になりました。また、これをきっかけとして講師には次年度の学科の授業でも後輩たちに「はなし」の文化を伝えてもらうことになりました。



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

心理学科主催イベント

こころなごみカフェ

健康科学部心理学科学生

「語り」 そのものの持つ力を活かす

京都市「学まち連携大学」推進事業の一環として、健康科学部心理学科では、2017年に「こころなごみカフェ」の取り組みを開始しました。本学と提携を結んでいる、醍醐中山団地に出向いて実施する、主に高齢者を対象とした茶話会形式のイベントです。今年度は、10月27日（土）、12月15日（土）、1月19日（土）の3回、10時30分から12時まで、醍醐中山団地内の本学地域連携センター分室・交流室での開催でした。毎回3名の心理学科3回生と2名の教員（3回目のみ学生2名と教員1名）が団地へ伺い、各回最大10名程度の住民の方が参加されました。

同団地においては、すでに本学から看護学科や理学療法学科などが出向いて、さまざまな住民支援イベントを実施しており、イベントそのものはもちろんのこと、終了後に学生との交流を楽しみにされている住民の方も多にお聞きしておりました。そこで、心理学科としては、その「交流」「語り合い」の部分を中心にしてみようと考えて、このイベントを企画しました。心理学科の学生にとっては、カウンセリングの授業内で学んできた「傾聴」についての、体験的学習の場となります。

今年度の新たな取り組み

昨年度の実績を踏まえ、今年度は新たな試みを取り入れました。それは、担当する心理学科の教員が、最初の話題提供として、心理学に関連するミニレクチャーを行うことです。団地自治会からのご要望にお応えする形で実現しました。各回のテーマは「女性の心と男性の心～考え方にも違いがある?」「心にも適度な運動を！～心温めエクササイズのお話とオタメシー」「親の心、大人の心、子どもの心～交流分析から考える～」でした。それぞれ、この話題に刺激される形でお話が盛り上がり、参加した学生にとっても、人生の大先輩から、経験に基づくお話を伺うことができ、大変有意義な時間になったようです。

今後の課題

心理学科の場合、授業とは別に土曜日に参加するボランティア、という位置づけであることもあり、学生の参加数を増やすことが今後の課題です。新3回生の中にもこの活動に関心を持つ者が少なくないので、さらに積極的な参加を呼びかけます。また、来年度には心理学科に、高齢者に関する分野を専門とする教員も着任することから、心理学科らしい内容の充実に向けて、教員間でも再検討したいと考えています。



■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

作業の力を用いたヘルスプロモーション

ものづくり教室

作業療法学科教員＋学生

「作業」をとおして健康になろう

高齢になっても、たとえ障害をもっていたとしても、その作業に夢中になれば、ひとりで体が動いていきます。その人にとって意味のある作業は、その人を健康に、幸福にしてくれます。作業療法学科では学科の特性を生かし、地域高齢者を対象として作業（ものづくり）を通じて仲間づくりや活力づくりに貢献するヘルスプロモーション・プログラムを実施しています。このプログラムは月1回程度、本学啓成館にて行われ、希望する学生も一緒に参加しています。

まず第1回目は2018年12月1日（土）に開催しました。70代から80代の高齢者の方を中心に9名の参加者があり、七宝焼きと革細工に分かれ、ネックレスやブローチ、爪切り、タイピン、キーホルダーなどを制作しました。お茶の時間には、本学の近藤敏教授が「元気高齢者10箇条」のレクチャーを行いました。

参加者の皆さんからは、「ものづくりを体験して若返った気分」「ものづくりは夢がある、また形に残るのがいいと思う」「大学の門をオープンにした感じが良かった」などの感想が聞かれました。

異世代交流による学びあい

第2回は60代から80代の高齢者7名（男性4名、女性3名）と作業療法学科1回生4名（男性2名、女性2名）、教員3名が参加しました。「しあわせ新聞編集局」として、2つのグループにわかれて新聞記事から、暗い記事が多い中、みんなが幸せになれるような記事を集めて、発表しました。

高齢者からは「若い人はAIや科学技術などの記事を選んでいて頼もしく思った」「日々、何かひとつでもときめきを感じようと思った」、学生からは「年齢が離れているからこそ新しい視点で一つの記事を見ることができ、とても勉強になりました」「シニアと学生と違った視点を知ることができて面白かったです」といった感想が聞かれました。それぞれ選ぶ記事の違いから、世代の視点の違いを感じて新鮮だったようです。この活動では高齢者に作業を教えるという一方的な関係ではなく、高齢者たちからは地域の文化や人生経験・知、記憶を学生に語り教えてもらうという互恵的な場となることを期待しています。

「ものづくり」は「ものがたり」づくり

発表後はお茶を飲みながら、次回、何を作るかを話し合いました。革細工、陶芸、タイルモザイクなど、いろいろな希望が出ましたが、今回はタイルモザイクの小箱を作ることとなりました。この箱をどんな目的で使うのか、誰にあげるのか、どのようなデザインにするのかを考えてきてもらうこととなっています。また作品の反省点を踏まえて2つめに挑戦してもらいます。ただ作るのではなく、作業には物語があるということ、そして計画、実行、評価、改善のPDCAサイクルを意識してもらうことが脳の前頭前野や海馬を刺激し、認知症予防にもつながっていくと考えています。



七宝焼き制作中



しあわせ新聞編集局

■ 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」 促進事業）

異なる学科間での「学び」の共有

学生の地域連携活動発表会「学まちAWARD」開催！

学まち AWARD とは？

本学では、さまざまな学部学科がそれぞれの特長を生かした地域連携活動を展開し、学生たちは地域から多くの事を学んできました。しかし、他の学科ではどういった活動が行われているかを知る機会が少なく、地域での「学び」の形やその成果を全学で共有することを目的として、学生による地域連携活動発表会「学まち AWARD」を 10/31 と 11/14 の 2 日に渡って開催しました。

個人・グループを問わず、各学科から選出された学生 12 チームが、学科における地域での「学び」の成果発表を行いました。内容は、地域と関わる授業やサークル、有志の活動での成果などで、それぞれがパワーポイントを用いて、伝え方に工夫を凝らしました。

（各学科の発表内容）各学科の発表内容は以下の通りです。

10月31日（水）学まち AWARD 前半

学科	テーマ	発表者
作業療法学科	出町柳（出町ラポ）での活動	武田紗奈・押谷健斗（作業）
心理学科	子どものメンタルヘルスに着目した学習支援 ～宿題をかたづけたいあなたと一緒に宿題かたづけ隊!! 参上～	林栄里香（心理）
歴史遺産学科	地域・消防・所有者と歴史遺産学科による文化財防災訓練 ～4者連携による文化財の保護と継承～	寺田善照・長澤知真（歴史遺産）
児童教育学科	地域の子どもたちとの音楽を通じた交流 ～アウトリーチ活動の取り組み～	浅井美鷹・荒木望美・太田来実・門脇佑香・木下紘枝・澤菜々花・曾我部由愛・平菜奈実・武田真奈・田中沙紀・田村真里絵・堤野乃・山下遥香・浅井沙彩（児教）
経営学科	MOMO テラスと連携した地域活性化イベント PBL の取り組み	伊藤心（経営）・斧直輝（都市環）
都市環境デザイン学科	こだわり市場×洛和会	中島美優・福本弥生（都市環）
看護学科	醍醐中山団地 お助け隊	熊谷涼子・出原桃佳・夢田唯香・安東怜美・中井文彦（看護）

11月14日（水）学まち AWARD 後半

学科	テーマ	発表者
国際英語学科	“Unexplored Kyoto Yamashina” の作成	大川紗英子（英コミ）
理学療法学科	いきいき幸齢教室 一醍醐中山団地～	長野壮馬（学生グループ CRC 代表）
日本語日本文学科	筆を持って天下一品（書道コースの活動紹介）	足立咲己・新田潤（書道コース）
救急救命学科	地域の絆・消防団 多世代（20才代～60才代）の心意気!! ～地域貢献と公的ボランティア～	岡篤志・米田拓斗（救急）
臨床検査学科	臨床検査を支える京都発の世界技術	寺尾友伽・由布美友（検査）

開催を終えて

この企画には、2日間でのべ100名を超える学生・教職員が来場しました。学生たちはさまざまな発表を聞く中で学びの多様な形を知り、他学科の学びに関心を持ったり、また所属学科の魅力を見出す機会となりました。

そして今回は初の試みとして、学生の活動奨励のため、各種の賞を設け来場者による投票を行いました。

受賞は次の4チームです。

- 学長賞（最優秀賞）心理学科「子どものメンタルヘルスに着目した学習支援～宿題をかたづけたいあなたと一緒に宿題かたづけ隊!! 参上～」
- 副学長賞（優秀賞）都市環境デザイン学科「こだわり市場×洛和会」
- 副学長賞（優秀賞）救急救命学科「京都市消防団に参加して」
- プレゼンテーション賞 臨床検査学科「臨床検査を支える京都発の世界技術」



児童教育学科の発表の様子



理学療法学科の発表の様子



学長賞を受賞した心理学科の林栄里香さん

■ その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
国際英語学部	国際英語学科	地域課題研究	1回生 全員対象	佐久間浩司	100名	京都・山科地区	外部講師による講義2件 建築設計士を招聘し、「地域住民中心の街づくり」を受講。史学院生を招聘し、明治期の伏見地域における街づくり「師団誘致運動」を受講。 フィールドワーク 京都の史跡名勝を対象に、史跡名勝の紹介、スケッチの作成、土地に因む和歌の紹介をグループワークで実施。それを英語でプレゼンし、地域文化への理解を深めると同時に、半年後の留学での日本文化紹介の準備をした。
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 aクラス	野村幸一郎	50名	岩屋神社	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 aクラス	重松恵美	50名	蹴上	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 aクラス	林久美子	50名	毘沙門堂	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 aクラス	安達太郎	50名	六波羅蜜寺	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 dクラス	橋本二三 尾西正成	28名	岩倉	祥瑞窯訪問、筆筒作成
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 dクラス	橋本二三 尾西正成	28名	大丸京都店	京都書作家展にてワークショップ（尾西）に参加
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	野村幸一郎	28名	伏見桃山	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	野村幸一郎	28名	東山	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	言語文化総合演習	1, 2回生	林久美子	27名	冷泉家住宅	現地見学
文学部	日本語日本文学科	古典文学講義Ⅳ （中近世）		林久美子	22名	観世会館	現地での演者によるレクチャー受講と忠三郎狂言会の鑑賞
文学部	日本語日本文学科	キャリア開発演習	2, 3回生	野村幸一郎	30名	鴨川デルタ	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	キャリア開発演習	2, 3回生	野村幸一郎	30名	宇治	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	キャリア開発演習	2, 3回生	野村幸一郎	30名	伏見稲荷	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語日本文学科	文芸講演会	学科	野村幸一郎	250名	学内	外部に開放して文芸講演会を実施。2018年度は綾辻行人氏
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究 入門ゼミ クラスa+d	増淵徹 小野浩 野田泰三	36名	祇園新橋重伝建地区・ 円山公園・八坂神社・ 法観寺・六波羅蜜寺 など	京都の歴史についての理解を深めることを目的に学外授業を実施した。見学に先立ち学生は案内レジュメを作成し、現場で解説を行うとともに、見学後はパワーポイントを作成して成果報告会を開催した。
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究 入門ゼミ クラスb+e	後藤敦史 松浦京子 永井和	36名	琵琶湖疎水記念館・ 南禅寺・平安神宮 など	同上
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究 入門ゼミ クラスc+f	尾下成敏 王衛明	35名	北野天満宮・ 御土居跡・上七軒・ 千本釈迦堂	同上
文学部	歴史学科	日本史講義Ⅱ、 古文書学AⅠ・AⅡ	日本史講義 Ⅱb、古文 書学AⅠ・ AⅡ	野田泰三	13名、 38名	学内	東寺百合文書など京都地域に関する中世文書をテキストに用い、中世京都の歴史について学んだ
文学部	歴史学科	日本史演習Ⅱ	bクラス	野田泰三	15名	学内/京都府立京都学 歴彩館	授業のテキストに東寺百合文書を使用した。東寺百合文書展の見学会を実施した
文学部	歴史学科	日本史演習Ⅳ	bクラス	野田泰三	13名	京都府立京都学 歴彩館	東寺百合文書展の見学会を実施した
文学部	歴史学科	京都の歴史と文化遺産	集中	増淵徹	35名	キャンパスプラザ	京都市文化財保護課の技師とともに、京都市内の各種の文化遺産について講義し、見学した（他大学・社会人への開放講座）
文学部	歴史学科	京都講座	集中	増淵徹 小林裕子 有坂道子	25名	学内・三十三間堂・ 南禅寺周辺など	本学で開かれる昭和大学の京都講座を担当。京都の歴史と各種の遺産について講義するとともに、建築・庭園・仏像などの見学を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習ⅠⅡ	abc	有坂道子	2回生	京都市中京区	近江屋平七文書（油小路姉小路）の解読
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習ⅢⅣ	d	有坂道子	3回生	醍醐地区	内海家文書の解読
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習ⅠⅡ	abc	村上裕道	2回生	京都市山科区	岩屋神社の調査
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅱ		村上裕道	3回生	京都市山科区	山科区内を対象として、歴史文化活用計画を作成
文学部	歴史遺産学科	地域課題研究	abc	村上裕道他	1回生	京都市内	葵祭・祇園祭・時代祭調査
文学部	歴史遺産学科	遺産情報演習1b （世界遺産PBL）	PBL	小林裕子	2回生以上 学部生・院生	京都市内	京都市、醍醐寺、本学と三者協同で問題解決型学習を実施した。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容(概要)
発達教育学部	児童教育学科	教育演習Ⅰ		佐野仁美	3回生佐野ゼミ生	京都市山科区	音楽に関心を持つ学生の集まる佐野ゼミの活動の一環として、7月にももの木こども園(山科区)の七夕会で演奏した。学生が計画を立て、管楽器やピアノのアンサンブル、トーンチャイムの演奏や歌を通して子どもたちと交流し、その後活動全体の振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	教育演習Ⅱ		佐野仁美	3回生佐野ゼミ生	京都市南区	音楽に関心を持つ学生の集まる佐野ゼミの活動の一環として、12月8日に京都市立吉祥院小学校(南区)の土曜学級で演奏した。学生がクリスマス・ソングや子どもたちにも馴染みのあるディズニーの曲を中心に選曲し、当日は演奏を通して子どもたちと交流し、参加者全員でダンスを踊った。その後活動全体の振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	学校・地域調査(国内)Ⅰ<児童>		河内晴彦他	児童コース2回生	京都市山科区他	小学校フィールドワークとして、4月から翌年1月まで、1年間にわたって週1回山科地域の小学校や自分の出身校を訪問し、授業を参観しつつ、個々の子どもの学習支援を行う。当該科目にて、各自の経験を交流した。
発達教育学部	児童教育学科	地域課題研究		青木美智子	学科1回生全員	山科、醍醐	オリエンテーションとして、山科地域でのボランティア活動例を紹介し、興味のあるボランティア活動に参加することを勧めた(1コマ)。その後、山科青少年活動センターのコースワーカーによる講演を実施した(1コマ)。さらに、山科地域で活躍している児童人形劇団を招聘、公演とグループワークを行うことから、地域の子どもの育ちについて体験的に考えた(1コマ)。最後にちびっ子ランドとして、山科地域の子どもたちを招待し、子どものための諸活動を大学で実践した。実践の振り返りについては、グループワーク(1コマ)とプレゼンテーションを行った(1コマ)。
発達教育学部	児童教育学科	学校・地域調査(国内)Ⅰ<幼児>		森本美絵	幼児コース2回生	京都市山科区他	半期を通して、同じ保育所や幼稚園等に、ボランティア等に出かけ、実際の現場の雰囲気や子どもの成長する姿をメモをとることを課題とした。演習では、メモをもとに印象に残った子どもの様子について意見交流し、クラス全体への発表、それらを踏まえてレポートを作成させた。また、滋賀県大津市立やまびこ総合支援センターを訪問・見学し、発達支援を必要とする幼児の保育、保護者支援について学びを深めた。
発達教育学部	児童教育学科	研究入門ゼミⅠ		森枝美 森本美絵 青木美智子 倉持祐二 池上貴美子 長橋聡	学科1回生全員	山科、醍醐	10月に大学で予定されているちびっ子ランドに向けて、クラスごとに子どもを楽しませる企画を考え、その実現に向けて計画を立案した。
発達教育学部	児童教育学科	研究入門ゼミⅡ		森枝美 青木美智子 倉持祐二 池上貴美子 長橋聡 大久保恭子	学科1回生全員	山科、醍醐	研究入門ゼミⅠに引き続き、クラスごとに子どもを楽しませる企画の準備を行い、10月に行われたちびっ子ランドでは、子どもたちと交流した。その経験を今後に生かすために、子どもたちの様子や遊びを介した親子のやり取りの様子についての気づきや、取り組みについての反省等について振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	基礎演習Ⅰ		南憲治 倉持祐二 池田修 三上周治 長橋聡 池上貴美子	学科2回生全員	山科、醍醐	10月に大学で予定されているちびっ子ランドに向けて、クラスごとに子どもを楽しませる企画を考え、その実現に向けて計画を立案した。
発達教育学部	児童教育学科	基礎演習Ⅱ		森本美絵 倉持祐二 池田修 三上周治 大久保恭子 池上貴美子	学科2回生全員	山科、醍醐	基礎演習Ⅰに引き続き、クラスごとに子どもを楽しませる企画の準備を行い、10月に行われたちびっ子ランドでは、子どもたちと交流した。その経験を今後に生かすために、子どもたちの様子や遊びを介した親子のやり取りの様子についての気づきや、取り組みについての反省等について振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	保育内容演習(表現)Ⅱ<児>		阿部真子	児童コース3回生 選択受講生	山科、伏見(小栗栖)	前前期の保育内容演習(表現)Ⅰにおいて「表現とは何か？」を様々な取り組みによって学んだ3回生児童コースの選択受講生(23名)が、その集大成として前後期の本授業でオペレッタを上演。各人が演者・裏方の両体験をすることで、実際の子どもたちに楽しんでもらえる舞台づくりのあり方・そのための準備の方法を工夫し、8月に大塚児童館(山科区)で「不思議の国のアリス」(11名)、くりのみ保育園(伏見区)で「オズの魔法使い」(12名)の2公演を行った。当日は公演を見てもらうだけでなく、子どもたちからの質問に答えるなどの交流を図った。その後、全体の取り組みについての振り返りを行った。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容(概要)
発達教育学部	児童教育学科	保育内容演習(表現)Ⅱ<幼>		阿部真子	幼児コース1回生(全員)	山科	後前期の保育内容演習(表現)Ⅰにおいて「表現とは何か?」を様々な取り組みによって学んだ幼児コースの1回生(87名)が、その集大成として後後期の本授業でオペレッタを実演。15人程度の6グループに分かれ、各人が演者・裏方の両体験をすることで、実際の子どもたちを楽しんでもらえる舞台づくりのあり方・そのための準備の方法を工夫し、1月末から2月中旬にかけて山科区の6つの保育園で「オズの魔法使い」「不思議の国のアリス(2グループ)」「ブレーメンの音楽隊」「11ぴきのネコ」「ヘンゼルとグレーテル」の6公演を行う予定。

現代ビジネス学部	経営学科	「歩くまち京都」リーフレットづくり	専門演習Ⅲ・Ⅳf	阪本崇	15名	京都市	特定非営利活動法人「歩くまち・京都」フォーラムおよび京都市と連携し、京都橋大学の新生入生に向けた公共交通利用促進のためのリーフレットを作成した。
現代ビジネス学部	経営学科	(株)美十 京都本社・工場見学	専門演習Ⅱi	平尾毅	3名	京都市南区	3名のチームを5つ作り、チームごとに事前学習として企業研究を行い質問事項等をまとめた上で、学生自ら訪問のアポ取りをし、訪問後にゼミ内報告会で情報共有を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	地域課題研究		松石泰彦		京都市・山科区	京都産学公連携機構の河上幸夫氏に「イメージの検証から考える京都市産業の現状と課題」と題した講演をしていただき、京都市の産業の様相を豊富な資料を交えて学んだ。また、京都市市議員の吉井あきら氏に「未来の山科のまちづくり～新しい山科の創造に向けて～」と題した講演をしていただき、本学を取り巻く山科区の情勢について、豊富な図表や資料を見ながら学んだ。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	専門演習ⅠⅡⅢⅣ		金武創	22名	京都市	年間5回の観光ガイド実習を京都市内の寺社や文化財、観光地で実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	専門演習Ⅱ		金武創	12名	京都市	例らくたびが実施する日帰り旅行である京都さんぽを学生が企画立案し、2019年1月25日に「京都橋大学・金武ゼミと共同企画 戦国乱世の社寺跡巡り 天神さんの縁日と御土居」として実施した。学生数名が実際にお客様に対して解説した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	3回生ゼミ共同プロジェクト(地域企業との連携)		木下達文	15名	京都府京都市	京都市山科区にあるニジユウマルキョウトとコラボした商品開発。今年度は企画と企業との調整・講演・ヒアリング、学内アンケート、店舗商品評価の実施。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「地域課題研究」		小辻寿規	約140名	京都市	地域のNPOリーダーや行政職員等をお招きし、京都市の文化や地域課題について学修した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	景観・アメニティ論		山岸達矢	37名	京都市山科区	京都刑務所周辺でのフィールドワークを実施し、刑務所跡地の土地利用に関するパブリックコメントを作成した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	法律学研究		山岸達矢	29名	京都市、大阪市、大津市	学生が地方裁判所で裁判を傍聴し、裁判傍聴記録を授業の中で発表した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	キャリア開発演習Ⅰ		山岸達矢	118名	京都市	元伏見区長経験者を招き、京都市役所での就労環境について学んだ。また、山科区役所で資料収集し、学生が説明する機会を設けた。

看護学部	看護学科	ライフサイクル論実習		深山つかさ 堀妙子	1回生 112名	山科区役所～ 山科中央公園	山科区老人クラブ主催の「美化ウォーキング」に参加した。学生は、参加者とコミュニケーションをとりながら、山科区内をゴミを拾いながら歩き、高齢者に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅰ		堀妙子 深山つかさ	2回生95名 4回生5名	京都橋大学 中央体育館	山科区老人クラブ連合会との共催で「体力測定会」を本学で行った。学生は受付及び体力測定の準備を行った後、参加者とペアになり、体力測定を行い、高齢者の健康状態などについての理解を深めた。参加者は109名であった。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅰ		堀妙子 松本賢哉 深山つかさ 岡田純子	2回生95名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住民を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行い、地域で生活する人々の環境と健康の関係に関する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		深山つかさ 松本賢哉 餅田敬司 岡田純子 中橋苗代	3回生 105名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住民を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行いながら、地域で生活する人々の健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		堀妙子 餅田敬司 伊藤弘子 鷺見舞	4回生 17名	山科総合福祉会館	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 木村知紗	4回生 14名	笑顔とふれあいの家 みささぎ	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 川村晃石 十倉絵美	4回生 14名	百々学区福祉協議会	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		黒龍安紀子 松本賢哉 平井亮	4回生 15名	笑顔とふれあいの家 みささぎ	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 奥野信行 田邊幹康	4回生 17名	百々学区福祉協議会	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 菊岡美樹 佐野真樹子	4回生 17名	山科総合福祉会館	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
健康科学部	心理学科	地域課題研究	j	日比野英子 石山裕菜 濱田智崇 永野光朗 井上裕樹	86名	京都橘大学	心理的支援や地域の活性化など地域課題の解決に取り組む事例について、ゲストスピーカーを含め8名の担当者の講義を実施した。ゲストスピーカーとして、山科区、草津市、山科区の実務担当者と宇治おおばく病院の担当者（精神保健福祉士）をお招きした。
健康科学部	心理学科	卒業研究		濱田智崇	2名	おおやけこども園・ たちばな大路こども園	集団に入ることには困難を抱える幼児に個別のかかわりを持つことで、統合保育のサポートを行い、その活動を通じて、幼児に対する心理的支援を実践的に学ぶ。その活動記録をもとに、卒業論文を作成することを目指している。

IV

その他の地域連携型教育プログラム



■ その他の地域連携型教育プログラム

防災最前線の職業を知る

若狭消防組合消防本部(福井県)での就業体験

地域住民の安全安心を守る職業人を目指す

この取り組みは今年度から始まった活動で、消防防災・救急の実際を体験することにより、生命と生活を守る消防署のシステムや、安全安心のまちづくりを中心とした社会の仕組みについて考え学び、消防に関する教育や交流の推進を目的としています。救急救命学科の学生が実施している救急車同乗実習とは異なり、消防防災全般の研修のためどの学科の学生でも参加することができます。また、火災・救急・救助の現場活動だけでなく、消防の幅広い業務についても学ぶことができます。

若狭消防署で2日間の体験

公募により救急救命学科3回生3名と都市環境デザイン学科2回生2名の計5名が、2018年9月13・14日の2日間参加しました。体験内容は、消防車両や積載器具の取り扱い、消防ポンプ自動車での放水訓練、そして、はしご車の搭乗や高所救助訓練施設での救助訓練も実際に体験することができました。また、消防本部には現場活動以外を担当する業務があり、総務、予防、警防といった部署において各種法令に基づいた事務等の業務について説明を受けました。他にも、消防音楽隊の練習日であったため演奏練習の見学や消防音楽隊が行う広報の役割について学ぶことができました。

体験した学生の学び

参加した学生からは、「2日間という短い間だったが、救急、救助、消防それぞれの専門の方々から丁寧な指導を受け、貴重な体験となった。この就業体験で得たことを自分の将来の進路で生かせるよう、これからの1年間努力していきたい」「若狭消防の職員の皆さんに歓迎していただき、指令センターや消防音楽隊の見学、訓練、普通救命講習など、普段できないとてもいい経験ができたことに感謝したいと思う」「隊員の方々が日々行っている訓練を実際に体験し、消防官になりたいという思いが強くなった2日間だった」という感想がありました。学外で実際を知り、この体験を通じて学び、そして学生それぞれが今後の課題を見つけることができたことは大きな成果となりました。体験終了後の学生は、初日の様子とは見違えるように成長し、頼もしく感じられました。今後もこの就業体験プログラムは継続していく予定です。



救助器具を使用した金属パイプの切断訓練



消防職員と意見交換



救助隊員と防火衣姿の学生（後列5名）

■ その他の地域連携型教育プログラム

大学の垣根を超えたチーム医療教育

京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育を実施!

京都橘大学看護学科 4 回生×理系療法学科 4 回生×京都薬科大学 5 回生

11月1日(木)、京都薬科大学(京都市山科区)で、多職種連携教育(IPE: Interprofessional Education)を実施しました。これは、多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成を目的として行われ、本学からは看護学科、理学療法学科の学生が、京都薬科大学からは薬学部の学生が参加しました。

当日は、看護師・理学療法士・薬剤師の3つの立場からシナリオ事例に沿って、患者さまや患者さまを取り巻く環境についての状況把握や介入の仕方について議論をしました。第1部では、学科ごとのグループで、それぞれの職種でどのように患者さまの状況をとらえ、向き合うかを議論しました。第2部では、学科混合のグループで各職種の視点の違いや、介入できる点・介入してほしい点などを共有し、具体的にどのように協働できるか議論を深めました。第3部では、グループごとに意見をまとめ発表をしました。

IPE研修の目的は、異なる医療教育を受けている学生が、垣根を越えて学び・話し合うことを通じて、それぞれの職種の強みや弱みを知り、チーム医療に貢献することです。この研修は2016年度から本学看護学部と京都薬科大学薬学部で行い、3回目の今回は、本学健康科学部理学療法学科が加わりました。参加した学生たちは、各職種における視点の違いに理解を深め合いながら、何が患者さまにとってより良いのかと議論をしたり、専門的な用語や見解に質問し合ったりする様子がみられ、活発な研修となりました。

なお、本学と京都薬科大学は、2019年3月「教育研究協力に関する包括協定」と「合同多職種連携教育実施に関する覚書」を締結し、今後もIPEを協働で取り組むこととしております。



発表の様子



集合写真



グループワークの様子

滋賀県高島市域を対象とした活動（歴史遺産学実習）

古墳の調査から地域の古代史を復元する

高島市南畑古墳測量調査2018

文学部歴史遺産学科考古学コース×高島市教育委員会

古墳の発掘調査から地域の古代史を復元する

古墳は、十分な古文書がない時代に地域の有力者の盛衰を知るうえで欠かせない歴史遺産です。古墳の研究は、古墳の測量や地表面調査、発掘調査を通じて、その規模や形状、築造時期などの文化財情報を把握することが必須となります。しかしながら、自治体が行う埋蔵文化財情報は日々更新され、考古学研究は日進月歩です。そこで、地域の文化財状況を熟知している地元自治体の文化財部局と最新の研究成果に基づき、あらたな調査手法を駆使する大学の連携が、古墳の調査を行ううえで重要となっています。そして、現地調査を行うことで、学生は埋蔵文化財をどのように調査し、そして自治体の文化財行政のなかで保全・活用していくのかといったことを実践的かつ主体的に学ぶことができます。

学生たちと行政の文化財担当者が実施する共同調査

上述した取り組みの実践例として、2018年夏に文学部歴史遺産学科では、高島市教育委員会の協力のもと、高島市に所在する南畑古墳の測量調査を実施しました。この調査は、歴史遺産学科選択必修科目の「歴史遺産学実習」の一環となります。調査には、実習受講者9名と考古学コース有志11名、大阪大学考古学研究室からの参加者2名からなる22名が参加しました。現地調査期間は8月27日から9月10日であり、その後も出土遺物の実測作業などを行ってきました。現地調査では、考古学での古墳調査の基礎的技能である平板測量、表面調査だけではなく、最新の三次元レーザー測量、写真測量も実施しました。

この実習を通じて、参加者は古墳を調査する上で、古墳のどこを観察すればよいのか、新旧の測量機器をどのように用いればよいのかといったことを学び、調査技能を身に付けることができました。

明らかとなってきた地域の古代史

調査の結果、南畑古墳が5世紀後半に築造された古墳であることがわかってきました。古墳の規模は、墳丘長12.5mを測る円墳であり、一部造出し状を呈する部分が認められました。詳細な築造年代や墳形については、発掘調査によって解明しなければならない点が多く含まれます。しかしながら、これまでにこの地域で知られていた有力墳である田中王塚古墳と鴨稻荷山古墳のあいだに、この南畑古墳が築造された可能性が高くなり、政治的な変化の一端が判明してきました。

調査に参加した歴史遺産学科2回生の庄司光一さんは「古墳の調査に参加することははじめてのことだった。現地で機材を使って計測することで、全体像がみえてくるのが興味深かった」、歴史遺産学科3回生の松本弥和さんは「これまで教わったことをもとに古墳を測量し、少しずつ図面が出来ていく過程には達成感があり、とても良い経験になりました」と話しています。

今後も、高島市教育委員会と協働し、今回の調査成果を市民の方に発信していく予定です。



■ その他の地域連携型教育プログラム

「よそ者、若者」の視点で地域の宝物探し!!

「～磨き輝かそう大野の宝～越前おおの観光プロデュースコンテスト2018」で優秀賞受賞

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 福井弘幸ゼミ

コンテストの概要

本コンテストは、福井県大野市主催で実施され、全国の高校生、大学生、専門学校生の若く柔軟な発想で福井県大野市の観光に関する企画提案を募集するもので、応募された提案を今後の市の観光事業企画に反映することを目的としています。

エントリー数は、「高校の部」に7チーム、「大学・専門学校部」に30チームで、企画提案書による一次審査を通過した「高校の部」3チーム、「大学・専門学校部」3チームが、8月4日から5泊6日の日程で大野市から招待を受け、現地調査により企画内容のブラッシュアップを図り、二次審査のプレゼンテーションに臨み、福井ゼミの3回生が優秀賞を受賞致しました。

受賞した福井ゼミBチームは、大野市から指定されたテーマの中から「大野市の観光消費額（飲食・宿泊・土産・体験など）を増やすための取り組み」を選択し、『Carrying OCHA Projekt ～大野にお茶を根付かせよう～』のタイトルで発表しました。

今回の企画を検討するにあたり、事前に学生自らが現地に赴き観光資源を調査し、公開資料等より歴史を紐解き、大野市が水の郷百選に選ばれるなど古くから水に恵まれた場所であること、大野市のまち並みをつくった金森長近が千利休の門下で茶人として有名だったことに注目し、観光客だけでなく、地域住民の心にも「まち自慢」として、お茶のまち大野を根づかせる提案でした。

取り組みの経緯や成果と狙い

福井ゼミの専門ゼミでは、アクティブラーニングの軸にPBLを位置づけ、毎年学外のコンテストに挑戦しています。意図としては、1～2回生で学んだ知識や理論を実学として課題解決にどのように活用するかを学生自らが理解することにあります。

幸いにも過去3年間に「第8回関空発『学生と旅行会社でつくる』海外旅行」、「OSAKA 観光まちづくりコンテスト2017」で優秀賞、ポスター賞の受賞、また受賞には至りませんでした。「大学生観光まちづくりコンテスト2016」での最終審査会でのプレゼンテーション参加などの成果をあげています。今回の受賞は、その取り組みのひとつの成果になります。

しかし、狙いは受賞することではなく、受賞に至るプロセスを重視しています。つまり、学生自らが挑戦する学外コンテストのサーチ、文献/公開資料や現地調査による企画書作成、随時ゼミ生全員での企画内容の検討というプロセスの中で、それぞれの学生がチームワークの重要性とともに自らの成長（課題発見力、解決力の醸成）を自覚することを狙いとしています。

このような取り組みは、学生が社会に出た時に業界を問わず有用であると考えています。



大野市の職員の方との記念写真（懇親会）



受賞式



プレゼン風景



授賞式会場前



授賞式全体写真（前列左から二列目が福井ゼミ）

■ その他の地域連携型教育プログラム

職員とともに市の事業の評価を改善する

京都市事務事業評価サポーター活動

事務事業評価サポーター PBL ×京都市

取り組みの概要

京都市事務事業評価サポーター制度は、事務事業評価のプロセスに学生が参加し、学生の視点から評価票の改善や事業への提案を行うことで、事務事業評価制度の市民への浸透を図るとともに、その運用面での改善を図ることを意図したユニークな制度です。制度に参加する学生は、事務事業評価に関する学習を経たうえで、取り上げたい事業として選んだ複数の事業について担当課からヒアリングを行います。そのうちのいくつかを選んで事務事業評価票と事業自体の検討を行い、その結果について12月に行われる第2回事務事業評価委員会でプレゼンテーションを行います。これまでに、本学だけでなく、京都市内で学ぶ多くの大学生がこの事業に参加しています。

取り組みの経緯や狙い

この制度には、現代ビジネス学部現代マネジメント学科（現・経営学科）・阪本ゼミ3回生が2015年度と2016年度の2回にわたって参加してきた経緯がありますが、本年度は、現代ビジネス学部から広く参加者を募り、正課外の活動として実施することとなりました。結果として経営学科3回生9名、2回生2名、都市環境デザイン学科3回生1名が参加しました。

現代ビジネス学部には、経営学科には公共経営コースが、都市環境デザイン学科には公共政策コースがあり、今回参加した学生の多くも公務員を目指しています。これらの学生が公共部門の具体的な事務事業に触れることで、授業や教科書からはなかなか学ぶことのできない具体的な市役所の仕事について学ぶことがこの取り組みの主たる狙いです。

取り組みの成果

本年度は、参加した12名が各4名の3チームに分かれ、「生活保護世帯等困窮世帯の子どもに対する学習支援事業」「障害者就労支援推進事業」「放課後ほっと広場」の3つの事業について、評価指標の変更など事務事業評価票の改善案や、事業そのものへの提案を行いました。

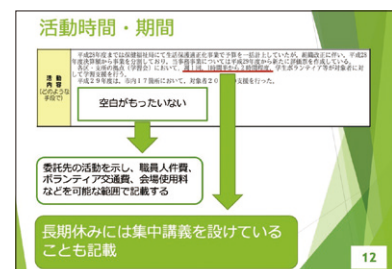
コンテストのような形式で行われているわけではないので、具体的な形として成果や実績が出た訳ではありませんが、第2回事務事業評価委員会では評価委員から発表内容について高い評価をいただきました。また、この発表の場において評価委員の先生方と担当課職員の方々とのおこなわれた質疑応答の内容は、公共部門のあり方について学ぶ上で、非常に貴重な体験になったと思います。



グループワーク



発表風景



プレゼン資料

■ その他の地域連携型教育プログラム

「ポリス&カレッジ in Kyoto 2018」 最優秀賞受賞

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 小暮宣雄ゼミ

大学ゼミ対抗「高齢運転者交通事故防止対策」プロジェクトについて

このプロジェクト（愛称は、「ポリカレ」）は、京都府警察本部交通部と京都府下の大学7校8ゼミがタイアップして、若者の視点から、運転免許証の自主返納促進を中心とした高齢運転者交通事故防止対策を提案しコンテストとして審査されるというもので、今年度が初回になります。

今年のはじめに打診があり、ゼミ生たちは、高齢ドライバーの事故の問題がどれだけ重要かを認識することになりました。5月20日（日）には、京都府警の会議室で7大学に対する説明会があり、朝日新聞などの取材も受けました。

ゼミでの取り組みの経緯

小暮ゼミでは、運転免許証の自主返納の不安を解消するために、「お試し期間」制度を創設したらどうだろうかというアイデアがゼミ生たちから生まれ、これをきっかけにして、3つの班に分かれて研究と企画づくりをすることになります。

具体的には、高齢運転者を取り巻く社会状況やアンケートに表れる当事者の心理などを分析する「現状分析班」と、「お試し期間」を含んだ自主返納時における人生の区切りを前向きにとらえるための「人生イベント企画班」、そして、運転を卒業するかどうかを考える「お試し期間研究班」です。その結果、高齢者の運転免許証の自主返納を促進するために、「お試し期間」制度と、人生イベントである「運転卒業式」企画が有効であると結論づけこの二つを提案することになりました。

ポリカレ発表・審査会の結果

ゼミの後期では、8名が中心となり、パワーポイントを制作しイラスト7枚も自分たちで作成しました。ゼミの時間以外でも、アクティブcommonsなどで検討し、発表の練習も直前まで熱心に取り組んでいました。

11月24日（土）、ホテルでの発表はスムーズにいきましたが、いくつか出た質疑に対しては、半分ほどしか応答できなかったため、事前にもっと想定問答をしておくべきだったと反省していました。ところが、審査の結果、最優秀賞ということで、ゼミ生たちは望外の喜びだったようです。そのあとの交流会でのお話では、アイデアやネーミング、発表方法、そして実現可能性を評価していただいたようです。

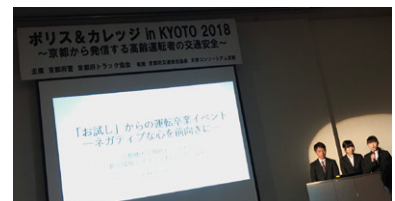
次年度も続く予定だということもあるので、より一次資料にあたり、フィールドワークをすることをゼミとして心がけていく必要がありますが、公共政策のなかでも警察行政について取り組むのは新鮮で、学生たちは、与えられた課題を、自分たちが学んだこと（イベントデザインなど）を援用しつつ、具体的な企画までもっていったことがこのプロジェクトにおけるゼミとしての成果だったと思っています。



ゼミ生によるイラストの一部



ポリカレ最優秀受賞後、喜ぶゼミ生たち



プレゼンテーションの風景

■ その他の地域連携型教育プログラム

最先端の技術を調査し、ビジネスアイデアを考える

ビジネスプランコンテストでの受賞

現代ビジネス学部学生

ビジネスプランコンテストとは

ビジネスプランとは、ビジネスに繋がるアイデアを考え、その事業内容や効果を明確にすることです。コンテストは、民間企業や自治体等が開催しており、書類審査、プレゼン審査により、魅力的なビジネスプランに賞が与えられます。

取り組みの経緯や狙い

ビジネスプランコンテストでの受賞を目的とした「ビジネスプランPBL」を立ち上げ、興味のある学生を募集し、2018年4月から活動をスタートしました。まず、学生の自由な発想で、「お金を儲けるための仕組み」を計数十プラン考えてもらい、何回にも渡りプレゼンと議論を繰り返しました。そして、8月頃からプランのテーマを絞り込み、内容を充実させていながら、各コンテストの応募様式に合わせて申請書やプレゼン資料の作成を行いました。この活動では、「提案力」、「文章力」、「プレゼン力」とチームとしての活動で「コミュニケーション力」が身に付くだけでなく、受賞できれば、それが学生の自信となり、就職活動をする際の強みにもなると考えております。

2018年度の成果や実績など

2018年度は、経営学科と都市環境デザイン学科の学生、計4名が2チームに分かれ、活動を行いました。「居抜き住宅の仲介サービス」を提案したチームは、第4回榎原ビジネスプランコンテスト（応募総数：14件）で審査員特別賞、第20回キャンパスベンチャーグランプリ大阪（応募総数：142件）で第3位タイにあたる日刊工業新聞社賞を受賞しました。また、「地域型保育事業における保育者の支援サービス」を提案したチームは、テクノ愛2018の大学の部（応募総数：48件）で健闘賞を受賞しました。国公立大学、有名私立大学と同じ土俵で競い合っただけの結果は、非常に誇れるものであると考えております。ただ、特定の学生からは達成感とともに、「もっと良いプランにできた」「上位にいった」という悔しさを感じました。これは、学生が本気で頑張ったからこそ感じるものではないかと思えます。学生には、このPBLでの結果を自信にして、これからも成長を続け、将来、各々の場所で活躍してくれることを期待します。



ビジネスプランPBLのメンバー



テクノ愛2018の賞状



プレゼン大会の様子

■ その他の地域連携型教育プログラム

若きインテリア設計者の登竜門

「インテリア・プランニング・コンペティション 2018」入賞

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 北村義典ゼミ

コンペティションの概要

本コンペティションは、日本インテリアプランナー協会が主催するもので、インテリアプランナーを目指す若手の育成と活躍の場を創出するため、2年に一度開催される設計競技です。個人、グループでの応募の他、授業やゼミの課題として取り組み、応募することが認められています。北村ゼミでは2018年度前期の授業で国内コンペティションを課題とし、13名のゼミ生が3チームを構成し自ら選んだコンペティションに応募しました。

取り組みの狙い

インテリア及び建築での創作を必要とするデザイン教育では、制作した作品の評価が重要な意味を持ちます。大学内での評価に加え、日本国中の若手デザイナーの中であって自らのデザイン力を認識するには、こうした国内外のコンペティションに応募し、他者からの客観的な評価を得ることが大切です。

国内コンペティションの課題設定には、現代社会の問題、今後の社会や環境への提言等、深い思慮を必要とする内容が多く、その提案には設計の専門性のみならず教養教育で修得した幅広い知識と洞察力を駆使した課題の総合的な分析と創作が必要となります。

教育的成果

本コンペティションのテーマ「物語るインテリア」では、次のような質問がなされています。「暮らしの中には心に残っていく物語りがあり、語り継がれることによって人々に共有される。そうした物語りを空間として提案して欲しい」という内容でした。今回、学生たちが提案した「土光の間」では、悠久と繰り返される生命の流れを「生と死の物語」として空間的に表現しようとしたもので、何気ない生活の中に根源的な意味を問うものでした。今回の受賞からは、デザイン教育には文科系教養教育の基盤が重要であり、本学でのインテリア・建築分野の教育方針が適正であることを感じました。

生物は自然の摂理に従い、それぞれの時間を生き、いずれ死が訪れば土に還る。この生命の流れが幾度も繰り返され、時間の経過とともに積み重なっていく。それは自然が創り出す1つの壮大な物語と言えるだろう。その壮大な物語の中で、人が生と死を強く身近に感じたとき、人は何を考え、何を語るのだろうか。生物が土へと還るといふ1つの生命の流れに焦点を当て、土の空間を作り出した。さらに、光と影の対比を表現し、より生と死を感じさせる空間づくりを目指した。死生観を意識した「物語り」から、普段の生活に何か新しい変化をもたらすことはできないだろうか。

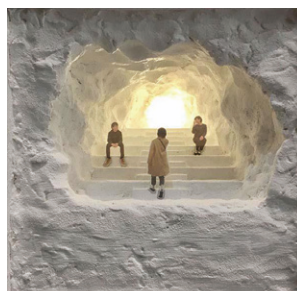
Interior Planning Competition 2018

募集テーマ「物語るインテリア」



展示風景

プレゼンテーション賞 作品番号 2291 土光の間



入賞作品

梅原 拓海
鈴木 夏果
門田 彩香

京都橘大学現代ビジネス学部
都市環境デザイン学科

■ その他の地域連携型教育プログラム

都市政策研究で京都の大学生が交流

京都から発信する政策研究交流大会

現代ビジネス学部経営学科阪本崇ゼミ・都市環境デザイン学科金武創ゼミ

取り組みの概要

「京都から発信する政策研究交流大会」は、2005年より大学コンソーシアム京都の主催で開催されている、学生の研究交流大会です。京都府内に拠点を持つ大学、その中でもとくに政策系の学部で学ぶ学部生・大学院生が参加し、多様な視点から広い意味での都市が抱える課題を発見するとともに、その解決策についてそれぞれが大学での学びを生かした研究を行った成果について発表を行います。その中で優秀な発表を行ったものについては、京都府知事賞／京都市長賞／大学コンソーシアム京都理事長賞／日本公共政策学会賞等の奨励賞が与えられます。

取り組みの経緯や狙い

この取り組みについては、前身である文化政策学部の時代から現代ビジネス学部の学部生、および文化政策学研究科（現・現代ビジネス研究科）の大学院生が、断続的にはあるものの発表を行ってきました。「都市政策」と銘打たれているものの、「都市部」での交通や産業といった狭い意味に限定されるわけではなく、地域課題を解決する、あるいは社会的な課題を地域の視点で解決する視点が含まれている研究であれば基本的には応募することが可能となります。

この取り組みに参加した狙いとしては、他大学の学生と研究内容について交流を行うことで、学生たちの視野を広げるとともに、学生が普段からの自分たちの活動について見つめ直す機会を与えることです。

2018年度の成果や実績

本年度の大会において、学部生による口頭発表へのエントリーは85件であり、そのうち51件が口頭発表の資格ありとされました。ゼミとしてこの大会に参加した現代ビジネス学部経営学科阪本ゼミ3回生は、「学生と地域企業のための奨学金」という研究内容を発表しました。大学生の中に経済的に厳しい状態にある学生が少なくない一方で、将来の返済負担を嫌い奨学金を利用しない学生も少なくないとされることから、企業が奨学金返済の一部を支援することに対し、投資減税のように租税優遇を行うことで、地域企業のためにも学生のためにもなる制度を作ることができるのではないかとというのが発表の内容です。この発表は、審査員より高い評価を受け、各分科会で原則1件選ばれる優秀賞に選ばれました。

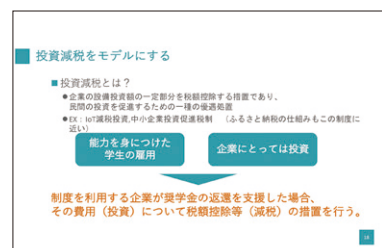
この取り組みに参加した学生は、発表までの準備や実際の発表を行うことを通じて、十分な準備を行うことの重要性などを学びとともに、人前で発表することができるだけの態度を身につけることができたと考えています。



表彰式



論文



プレゼン資料

その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
国際英語学部	国際英語学科	エコツーリズム・シンポジウム	3回生	宮崎裕二	1名	滋賀県	第10回全国エコツーリズム学生シンポジウムに参加。ワークショップに参加し、翌日の沖島エクスカーションには、教員2名、学生1名が参加。
国際英語学部	国際英語学科	「英語の教え方教室」第6回合宿 in 安曇川	3回生・4回生中井ゼミ	中井弘一	17名	関西 滋賀県立安曇川高等学校にて開催	中等教育における英語授業のあり方を京都・滋賀・奈良・大阪・兵庫の幻影の英語教員と本学の教職専攻の学生を交えて勉強会を行った。中井が本合宿のテーマ「生徒と教員の殻を破るこれからの英語教育」に沿って「主体的・対話的で深い学びを育成する英語授業—本当に大切なことは何か：授業展開にゆるがない理念を持つ—」について講演を行い、のちにテーマに即して、「生徒が殻を破る英語指導への挑戦」「教員がこれまでの指導の殻を破る英語授業の改善」と観点を二つに分けてそれぞれの教育的な意味や実践についてグループで話し合った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習ⅠⅡ・実習ⅢⅣ	d	有坂道子	3回生	大津市	葉屋文書の整理と解説
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習		中久保辰夫	教員・受講生および3回生・4回生希望者	滋賀県高島市	高島市教育委員会の協力の下、滋賀県高島市に所在する南畑古墳の測量調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	文化財特別公開におけるボランティア		小林裕子	学科学生有志	松花堂	松花堂における文化財の特別公開に際して、拝観者の誘導・案内を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ・Ⅳ	b	小林裕子	3回生履修者・院生	大阪府豊中市如来寺	如来寺からの依頼により、文書調査及び目録作成を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	ビジネスプランPBL		加藤諒	4名	奈良県橿原市等	民間企業や自治体が開催しているビジネスプランコンテストでの受賞を目的とした活動を実施した。計4名が2チームに分かれ、活動を行い、1つのチームは第4回橿原ビジネスプランコンテスト（応募総数：14件）で審査員特別賞、第20回キャンパスベンチャーグランプリ大阪（応募総数：142件）で第3位タイにあたる日刊工業新聞社賞を受賞した。また、もう一方のチームは、テックノ愛2018の大学の部（応募総数：48件）で健闘賞を受賞した。
現代ビジネス学部	経営学科	開放特許等を活用したビジネスアイデア学生コンテストPBL		加藤諒	4名	大阪市 (近畿経済産業局)	近畿経済産業局が主催する開放特許等を活用したアイデアコンテストでの受賞を目的とした活動を実施した。学生たちは、富士通社のQRコード埋め込み技術を用いたチケット販売サービスを考案し、提案書の作成やプレゼンを行った。残念ながら受賞はできなかったが、来場者や他大学の教員・学生との意見交換等、学外との交流もあった。
現代ビジネス学部	経営学科	ポリス&カレッジ in KYOTO 2018	専門演習Ⅰ・Ⅱe	阪本崇	15名	京都府	京都府警察本部が主催するポリス&カレッジ in KYOTO 2018にゼミ単位で参加し、高齢者の事故の減少に向けた方策について、学生たちが研究発表を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	井筒ハッ橋本舗 追分店工場見学	専門演習Ⅱi	平尾毅	3名	大津市	3名のチームを5つ作り、チームごとに事前学習として企業研究を行い質問事項等をまとめた上で、学生自ら訪問のアポとりをし、訪問後にゼミ内報告会で情報共有を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	雪印メグミルク 京都工場見学	専門演習Ⅱi	平尾毅	3名	南丹市	3名のチームを5つ作り、チームごとに事前学習として企業研究を行い質問事項等をまとめた上で、学生自ら訪問のアポとりをし、訪問後にゼミ内報告会で情報共有を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	コカ・コーラボトラーズ ジャパン京都工場見学	専門演習Ⅱi	平尾毅	3名	京都府久世郡久御山町	3名のチームを5つ作り、チームごとに事前学習として企業研究を行い質問事項等をまとめた上で、学生自ら訪問のアポとりをし、訪問後にゼミ内報告会で情報共有を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	UCC上島珈琲 滋賀工場見学	専門演習Ⅱi	平尾毅	3名	滋賀県愛知郡愛荘町	3名のチームを5つ作り、チームごとに事前学習として企業研究を行い質問事項等をまとめた上で、学生自ら訪問のアポとりをし、訪問後にゼミ内報告会で情報共有を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	専門演習Ⅱ		金武創	2名	大津市	第10回全国エコツーリズム学生シンポジウム(2018年12月8日)にて、「京滋の暮らしとエコツーリズムの情報発信：東海新幹線月刊誌「ひととき」を通して」が審査を通過し、ゼミ3回生代表2名が研究発表した。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	専門演習Ⅰ		福井弘幸	3名	福井県大野市	「越前おおの観光プロデュースコンテスト2018」で優秀賞を受賞。 本コンテストは、若く柔軟な発想で福井県大野市の観光に関する企画提案を募集するもので、応募された提案は今後の市の観光事業企画に反映することを目的としている。提案内容は、大野市が水の郷百選に選ばれるなど古くから水に恵まれた場所であることに注目し、観光客だけではなく、地域住民の心にも「まち目慢」として、お茶のまち大野を根づかせる企画だった。結果として「大学・専門学校の一部」に30チームがエントリーし、その中で優秀賞を受賞した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	基礎演習Ⅱ・専門演習Ⅱ		山岸達矢	36名	京都府向日市	向日市にある竹林の保全策と活用策について検討するために、向日市の担当部局と連携しながらフィールドワークを実施し、保全策や活用策について提案した。担当部署とのやり取りを含む企画の一部を学生が担うことで、学生はフィールドワークを企画する機会を得た。
看護学部	看護学科	ライフサイクル論実習		堀妙子 松本賢哉 深山つかさ 竹中友希	1回生 112名	和邇市民体育館 瀬田公園体育館 石山市民体育館	大津市老人クラブ連合会主催の「体力測定会」に参加した。学生は参加者とペアになり、コミュニケーションをとりながら体力測定を行い、高齢者に対する理解を深めた。
健康科学部	救急救命学科	若狭消防組合就業体験プログラム	救急救命学科	福岡範恭	5名	若狭消防組合 消防本部	消防署で就業体験することにより、消防署のシステムや安全安心のまちづくりを中心とした社会の仕組みについて考え学んだ。

V
公的研究費・助成金等一覽
(2018 年度実績)



公的研究費・助成金等一覧 (2018 年度実績)

助成元	助成金名	期間	種別	内容、テーマ	研究代表者	研究代表者所属・職位
笹川スポーツ財団	2018 年度 笹川スポーツ 研究助成	平成 30 年 4 月 1 日(日)～ 平成 31 年 2 月 28 日(木)	外部研究助成金	ロコモティブシンドロームを呈する学童期の子どもに対するダンスを用いた運動介入の効果検証—身体・精神心理機能に与える効果—	安彦 鉄平	健康科学部理学療法学科 准教授
ミズノスポーツ 振興財団研究助成	2018 年度 公益財団法人 ミズノスポーツ 振興財団研究助成金	平成 30 年 4 月 1 日(日)～ 平成 31 年 3 月 31 日(日)	外部研究助成金	スポーツ外傷・障害の改善を目的とした脳情報の可視化システムの開発	中野 英樹	健康科学部理学療法学科 助教
古川医療福祉設備 振興財団	平成 29 年度 第 5 回研究助成金	平成 30 年 4 月 1 日(日)～ 平成 31 年 2 月 28 日(木)	外部研究助成金	パーキンソン病患者のすくみ足を改善させる指歩行運動トレーニングの開発と効果検証	中野 英樹	健康科学部理学療法学科 助教
アステラス製薬 株式会社			外部研究助成金	河川・湖における薬剤耐性菌の分布調査と遺伝子学的解析	中村 竜也	健康科学部臨床検査学科 准教授
塩野義製薬 株式会社			外部研究助成金	河川・湖における薬剤耐性菌の分布調査と遺伝子学的解析	中村 竜也	健康科学部臨床検査学科 准教授
アイシン精機 株式会社		平成 30 年 4 月 1 日(日)～ 平成 31 年 3 月 31 日(日)	共同研究	補足運動野の特性を利用した身体機能支援技術の研究	兒玉 隆之	健康科学部理学療法学科 准教授
アシックス商事 株式会社		平成 30 年 4 月 1 日(日)～ 平成 31 年 3 月 31 日(日)	共同研究	アシックス商事が開発したシューズの身体に与える影響についての検証、当該実験結果に基づくレポートについての監修、これらに付随する作業	村田 伸	健康科学部理学療法学科 教授
日本ロレアル 株式会社 (共同)		平成 30 年 7 月 1 日(日)～ 平成 31 年 3 月 31 日(日)	共同研究	ヘアカラー製品の匂いが与えるストレスの研究	兒玉 隆之	健康科学部理学療法学科 准教授
東洋紡株式会社		平成 30 年 10 月 1 日(月)～ 平成 31 年 9 月 30 日(水)	共同研究	薬剤耐性化に関与する遺伝子変異の検出系の構築及び評価	中村 竜也	健康科学部臨床検査学科 准教授
日本ロレアル 株式会社 (受託)		平成 30 年 4 月 1 日(日)～ 平成 31 年 6 月 30 日(土)	受託研究	ヘアカラー製品プロジェクトに係るトライアル測定	兒玉 隆之	健康科学部理学療法学科 准教授
関東化学株式会社		平成 30 年 7 月 1 日(日)～ 平成 31 年 3 月 31 日(日)	受託研究	薬剤耐性菌検出キットの性能評価	中村 竜也	健康科学部臨床検査学科 准教授
歴史館受託研究		平成 30 年 7 月 12 日(木)～ 平成 31 年 3 月 31 日(日)	受託研究	中近世移行期洛西地域における中間層の動向について	野田 泰三	文学部歴史学科 教授

VI

自治体等との連携協力に関する 協定の締結





協定等

自治体等との連携協力に関する協定の締結

2012 年度～2018 年度

協定（連携）先	締結日	締結事項	備考
学校法人 昭和大学	2012年 1月16日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 看護職および看護・医療のレベルアップへの取組、人事交流、看護に関する共同研究と地域連携などを推進。	 昭和大学との包括協定調印式
日本赤十字社 京都第二赤十字病院	2013年 1月21日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 ○本学看護学部の主要実習病院としての連携強化 ○「京都第二赤十字病院特別奨学金制度」の創設（1学生約360万円） ○奨学金制度の創設に伴う新規推薦入試制度の導入 ○看護に関する共同研究および地域連携の推進、教職員の交流	 第二赤十字病院との包括協定調印式
京都市山科区	2013年 9月24日	本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。 ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進	 山科区との協定締結式
社会福祉法人 京都博愛会 (京都博愛会病院)	2014年 3月5日	理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 ○本学健康科学部理学療法学科における教育・研究に関する事項 ○京都博愛会病院理学療法士および理学療法・医療のレベルアップのための支援に関する事項 ○理学療法に関する共同研究および地域連携に関する事項 ○教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
社会福祉法人 大宅福祉会 (おおやけこども園)	2014年 6月1日	対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 ○本学人間発達学部児童教育学科における教育・研究に関する事項 ○本学看護学部看護学科における教育・研究に関する事項 ○本学健康科学部心理学科および心理臨床センターにおける教育・研究に関する事項 ○大宅保育園の保育職および保育のレベルアップのための支援に関する事項 ○地域の子育て支援に関する事項 ○教育と研究の発展のため、その他必要と認められる事項	
滋賀県野洲市	2014年 6月17日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他両者が必要と認める事項	
京都市 醍醐中山団地町内連合会	2014年 10月30日	京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。 ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康および福祉活動	 醍醐中山団地との協定締結式

協定（連携）先	締結日	締結事項	備考
滋賀県草津市	2014年 12月25日	<p>本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業 	 <p>草津市との協力に関する協定を締結</p>
大津市老人クラブ連合会	2015年 6月10日	<p>地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる看護職者の育成に関する事項（看護学実習の受け入れなど） ○その他両者が必要と認める事項 	
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 (京都市東部文化会館)	2015年 11月5日	<p>本学と京都市東部文化会館（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）は、連携に関する協定を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材の育成 ○学生の参加・学習 	 <p>京都市音楽芸術文化振興財団との連携に関する協定を締結</p>
和歌山県 和歌山県那智勝浦町	2016年 6月3日	<p>本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域資源再評価および観光広報、教育研究提携 ○人的資源の交流を通じた人材育成 ○地域貢献活動の推進による地域文化の向上および振興 	 <p>那智勝浦町と「大学のふるさと」協定を締結</p>
京都市 京都市児童館学童連盟	2017年 7月28日	<p>本学と京都市児童館学童連盟および京都市は、児童館における学習支援事業に係る協定を締結。 京都市内の児童館において、学生ボランティアが子どもたちの勉強サポートや相談対応などの学習支援事業を展開する。</p>	 <p>児童館における学習支援事業に係る協定を締結</p>
京都府山科警察署	2017年 9月11日	<p>本学と京都府山科警察署は、国際分野を中心とした協力に関する協定を締結。 本学から山科警察署への英語教育プログラムの提供や、山科警察署から本学留学生への柔道・剣道等日本文化体験機会の提供などを行う。</p>	 <p>京都府山科警察署との協力に関する協定を締結</p>
京都市 全国認定こども園協会京都府支部	2017年 8月4日	<p>本学と全国認定こども園協会および京都市は、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結。 これにより2017年度からの3年間、京都府内の認定こども園、京都市内の市立・私立幼稚園および市営・民間保育園の職員を対象とした幼稚園教諭免許状の更新講習を本学で実施する。</p>	 <p>京都の幼児教育・保育施設と幼稚園教諭免許状更新の連携・協力協定を締結</p>
株式会社ビバ	2018年 3月	<p>本学と株式会社ビバは、教育連携および地域活性化事業の展開に関する協定を締結。株式会社ビバが指定管理者として運営を委託されたスポーツ施設等において、学生の教育や共同研究等産学連携活動を行う。</p>	 <p>株式会社ビバとの連携に関する協定を締結</p>

協定（連携）先	締結日	締結事項	備考
福井県小浜市	2018年 3月	<p>本学と福井県小浜市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域振興を担う人材育成に関する事 ○地域社会の活性化およびまちづくりに関する事 ○教育および学習機会の提供に関する事 ○産業振興に関する事 ○情報収集および発信に関する事 ○その他、目的を達成するために必要な事項に関する事 	 <p>小浜市との包括協定を締結</p>
京都市 京都市児童館学童連盟 京都造形芸術大学	2019年 1月	<p>本学と京都市、京都市児童館学童連盟、京都造形芸術大学は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童館等において実施する職業体験事業への大学生の派遣 ○学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化 ○大学生等の知識・技術の向上、人材育成 等 	 <p>京都市児童館等との職業体験に関する4者協定を締結</p>
京都薬科大学	2019年 3月18日	<p>本学と京都薬科大学は医学専門職の養成および医学分野における教育研究の発展をめざし、包括協定を締結。その協定に基づき、合同多職種連携教育（[IPE]）を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療専門職の養成および医療分野における教育の発展に関する事項 ○学生および教職員の交流に関する事項 ○京都市山科区を中心とした地域連携に関する事項 ○医療分野における共同研究に関する事項 ○学内施設：設備の共同利用に関する事項 ○その他必要と認められる事項 	

VII

教員の活動実績等



教員の活動実績等

2018年度 学部・学科別活動実績

1 地域を対象とした研究活動

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
文学部	歴史学科	共同研究 「洛西の文化資源」	野田泰三	京都府・ 洛西地域	京都府立京都学・歴史館の共同研究の一環として、中近世移行期の洛西地域における土豪層の動向について調査・研究している。
文学部	歴史学科	特定共同研究「賀茂別雷神社文書の調査・研究」	金子拓(代表者) 久留島典子 高橋敏子 遠藤基郎 大山喬平 宇野日出生 五島邦治 野田泰三ほか	賀茂別雷神社 (上賀茂神社)な らびに京都周辺 地域	東京大学史料編纂所の特定共同研究。賀茂別雷神社文書の分析を通じ、神事・祭祀、賀茂六郷の支配構造、京都周辺地域の社会・政治構造を解明することを目的とする。
文学部	歴史学科	関西登山史研究・比良山系の部	永井和	滋賀県大津市・ 高島市	滋賀県湖西地方の比良山系に関わる登山史を研究。山岳宗教の時代からはじめて明治・大正期の近代登山の黎明期までを研究した。
文学部	歴史学科	戦国時代の京都文化と地方文化の関係をめぐる研究	尾下成敏	京都市・ 東海地方・ 石川県	戦国時代のいわゆる京都文化のうち、和歌・連歌を素材として、京都文化と地方文化の関係を研究している。

発達教育学部	児童教育学科	表現遊びから音楽づくりの分野への幼小接続についての共同研究	佐野仁美	兵庫県宝塚市	2018年11月13日に宝塚市立西山幼稚園にて、4歳児クラス、5歳児クラスを対象に、「かぞえうた」を用いた言葉遊びや絵本づくりについての実践の提案、および打ち合わせを行った。その後11月29日に保育を参観し、園内研究会で実践のまとめや助言を行った。科研費基盤Cにもとづく研究の一環でもある。
発達教育学部	児童教育学科	表現遊びから音楽づくりの分野への幼小接続についての共同研究	佐野仁美	京都市	2019年1月25日に京都市立吉祥院小学校にて、1年生の旋律づくりについての授業内容の提案、および打ち合わせを行う予定。実践は2月12日に行う予定である。科研費基盤Cにもとづく研究の一環でもある。

現代ビジネス学部	経営学科	研究ブランディング事業プロジェクト「地域を対象とする研究における情報の循環を効率化するための情報システムの研究」	阪本崇 平尾毅 杉浦昌 片岡裕介	京都市山科区	情報システムを用いて、地域における効率のよい情報循環を実現する方法を研究することが本研究の目的である。本年度は、その事例のひとつとして山科区が配信する区民向けアプリ「やましなプラス」の認知度や、操作性、それによって配信される情報に対するニーズについて行ったアンケート調査について分析を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	少子高齢社会における子育て住環境支援システムの構築と実装に関する研究	土井脩史	京都府宮住宅 槇島団地	京都府槇島団地の居住者を対象として、子育て住環境に関するアンケート調査を実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	都市部における地域産業の衰退と再生に関する研究	山岸達矢	名古屋市	名古屋市長者町での地域再生の取り組みについて調査し、地域社会学会で発表した。

看護学部	看護学科	高齢夫婦のみの世帯のソーシャルキャピタルの醸成に関する予備調査	松本賢哉 堀妙子 深山つかさ 伊藤弘子 川村晃石 竹中友希 田邊幹康 十倉絵美 木村知紗	安楽学区・ 山階学区	夫婦のみで生活する高齢者の現状を把握するとともに、プログラムの主軸となる社会活動に関するニーズを調査
------	------	---------------------------------	--	---------------	--

健康科学部	心理学科	地域における発達障害の方および家族への支援に関するニーズの把握と支援方法の検討	大久保千恵 濱田智崇 井上裕樹 日比野英子	京都府・滋賀県・ 奈良県	レジリエンスプロジェクト研究の子育て支援システム研究の一環として、保護者の方を対象とした支援についてのニーズ調査および学齢期のお子さん対象のサポートグループ「みんなのこころ育て広場」を実施した。「みんなのこころ育て広場」は今年度は4回開催し、活動前後に注意力等についての測定を行いその比較を行った。
健康科学部	心理学科	子どもの居場所づくりからはじめるソーシャルスキル開発「ソーシャルキャピタルとしての居場所の機能の検討と子どものレジリエンスをはぐくむプログラム開発」	大久保千恵 口野隆史(児童教育学科) 小辻寿規(都市環境デザイン学科) 森枝美(児童教育学科)	京都市山科区 京都市伏見区	レジリエンスプロジェクト研究のコモンスペース活用研究の一つとして、「しゅくだいかたづけ隊」を結成し、山科青少年活動センターおよび放課後等デイサービス事業所において、夏休みの宿題支援を行うとともに、児童生徒のメンタルヘルスに関わる支援を行った。

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
健康科学部	理学療法学科	軽度認知障害者及び早期アルツハイマー病患者の生活機能障害の障害メカニズムの研究	小田桐匡	近畿圏	認知障害に伴い生じる生活自立の問題に対して、その早期介入方略の開発を目指して、本障害の認知メカニズムの解明を目的に研究を行っている。本年度は従来から継続している脳撮像、神経心理検査、眼球運動分析に加え、対象者の動作について詳細に分析を進めた。わずかな動作変化を明らかにすべく対象者のエラーやエラーには至らない、わずかな動作変化であるマイクロスリップについて分析を行った。結果は、軽度認知障害者においても、有意に健常高齢者に比べエラー数が多いことが判明した。マイクロスリップに差は認めなかった。このことから、非常に簡易なIADLにおいても、臨床上では観察できない程の行動異常が軽度認知障害者に生じていることが判明した。今回の結果は10回以上におよぶIADL課題の反復によって明らかとなったもので、いよいよその微細な差の背後に潜む障害メカニズム解明の重要性が浮き彫りになった。

2 社会貢献活動

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
国際英語学部	国際英語学科	山科警察英会話教室	アングス、 ノーマン エリス、メグ	京都市山科区	なし	山科警察からの依頼に基づき、インバウンドツーリズム振興を背景とする警察のの外国語対応への協力。警察署に向かい英会話教室をシリーズで開催。

文学部	日本語日本文学科	京都書作家展ワークショップ	尾西正成	京都市	28名	大丸京都店で開催された京都書作家展にて一般の方対象のワークショップを実施。学生も参加した。
文学部	日本語日本文学科	桂二葉ちゃんの落語ワークショップ	林久美子	京都市山科区	7名	文学部の卒業生で若手落語家として活躍中の講師の協力を得て、地域の方々と交流しながら落語を学んだ。人前で話すのが苦手な学生も、3回のお稽古を経て4週目にはリレー形式で一席を演じることができた。
文学部	歴史学科	女性歴史文化研究所シンポジウム「発信する皇女」	増淵徹 野田泰三	京都市	あり	「発信する皇女」と題したシンポジウムにおいて、増淵が司会、野田がコメンテーターを務めた。
文学部	歴史学科	文学部歴史文化ゼミナール2018 京都・人とモノの再発見	藤井譲治 後藤敦史 増淵徹 尾下成敏	京都市	なし	講演のタイトルはつぎの通り、藤井「北野天満宮境内の御土居について」、後藤「京都を守る」、増淵「物語と貴族日記」、尾下「今川氏真と京の文芸」
文学部	歴史学科	コンソーシアム京都大学リレー講座「熊野学講座」(12/22)	野田泰三	京都市	なし	「足利将軍家の熊野参詣」というテーマで講演を行った。
文学部	歴史学科	市民講座の運営	野田泰三	京都市	なし	京都勤労者学園(ラポール京都)の日本史講座世話人として講座の企画に参画。講義を1回担当した。
文学部	歴史学科	賀茂社史料叢書の編纂	野田泰三	上賀茂神社	なし	賀茂社史料集編集委員・同編纂委員として史料集編纂に従事
文学部	歴史学科	京田辺市史の編纂	野田泰三	京田辺市	なし	京田辺市史編纂委員として、市史の編纂活動・史料調査に従事
文学部	歴史学科	摂津市史の編纂	野田泰三	摂津市	なし	摂津市史編纂委員として、市史の編纂活動・史料調査に従事
文学部	歴史学科	京都自由大学	永井和	京都市	なし	2018年5月18日に「慰安婦」問題 日本軍の責任と関与をどう考えるか」というテーマで講義した。
文学部	歴史学科	同志社大学シンポジウム	永井和	京都市	なし	2018年7月27日に同志社大学で開催された「いまあらためて日本軍「慰安婦」問題の責任を考える」というシンポジウムでコメンテーターをつとめた。
文学部	歴史学科	大山崎町歴史資料館歴史講演会	尾下成敏	大山崎町	なし	「織田から豊臣へー1580年代の政治史ー」というテーマで、3月下旬に講演を行う予定。
文学部	歴史遺産学科	草津宿本陣関係史料の整理	有坂道子	滋賀県草津市	3回生13名	草津宿街道交流館より委嘱を受けて、国庫補助事業に参加。

発達教育学部	児童教育学科	たちXパル	顧問 口野隆史	山科区内小学校 琵琶湖「OPAL」	子ども15名 学生46名	「たちXパル」のメンバーが、山科区内の大宅・勤修小学校の子どもたちを琵琶湖畔の「OPAL」まで引率し、そこでカヌー体験、水鉄砲、スイカ割り、葦(よし)を用いた工作、レクリエーションなどの指導を行った。子どもたちは、琵琶湖の自然の魅力を味わい、他の小学校の生徒と交流した。学生らは子どもたちの野外活動の指導について体験的に学んだ。今回は子ども数が少なかった。2018年8月9日実施
--------	--------	-------	------------	----------------------	-----------------	---

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
発達教育学部	児童教育学科	げんKids★応援隊	顧問 倉持祐二	京都市山科区・ 滋賀県草津市・ 京都市内	延べ約100名	学内外で22回の企画を実施。山科区内では、勸修小学校夏祭り、各自治会の地蔵盆、山科団地祭り、勸修ふれあいの集い、山科区赤ちゃんフェア、小野バザー、山科おやじフェスタ、岩屋保育園運動遊びに参加した。また、京都市内の取り組みとして、下京子どもまつりにも参加している。学内では、昔あそび、水遊び企画、スポーツ大会、クリスマス企画などを実施した。草津市の取り組みとして、宿場祭りや大路区民まつりに参加。企画に参加した子どもたちや保護者に対するアンケート調査をもとに、活動の幅を広げたり、豊かにすることを目指している。

現代ビジネス学部	経営学科	京都市事務事業評価サポーター会議チームリーダー	阪本崇 (山岸達矢) (西野毅明)	京都市	12名	京都市が実施する事務事業評価サポーター制度に参加し、「障害者福祉」「子育て支援」の諸事業から複数の事業を選定し、それぞれの事務事業評価表について市民にとって分かりやすいものとなっているか、事業を評価する適切な指標が設定されているか等について評価した。評価した結果や改善提案については、事業そのものに対する改善提案も含めて、12月に行われた第2回事務事業評価委員会にてグループ毎に発表した。
現代ビジネス学部	経営学科	山科区スマートフォンアプリ運営協議会	阪本崇	京都市山科区	なし	山科区が開発し、区民向けに配信しているスマートフォンアプリ「やましなプラス+」の運営方針について協議する「山科区スマートフォンアプリ運営協議会」に副会長として参加し、第1回運営協議会に出席し、アプリの運用方針について意見交換を行うなどした。
現代ビジネス学部	経営学科	山科区民まちづくり会議	阪本崇	京都市山科区	1名	「第2期山科区基本計画」に基づく取組の実施計画及び進捗評価や、「心豊かな人と緑の“きずな”のまち山科」の実現に向けた山科区の今後のまちづくりについて、区民・地域団体・NPO団体・事業者・大学・行政等を背景にもつ委員が参加する「山科区民まちづくり会議」に座長として参加し、会議のコーディネートをを行った。
現代ビジネス学部	経営学科	宇治田原町自殺対策計画策定	高原正興	宇治田原町	なし	同策定委員会委員長として同計画の策定に関して町に指導・助言を行い、委員の意見をまとめて、素案から最終案へと進んだところである。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	滋賀県守山市	なし	守山市による音楽によるまちづくり支援を行う。今年度は、学生を参加させず事業全体の評価活動を中心に行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	守山市文化振興アクションプラン策定協力	木下達文	滋賀県守山市	なし	来年度に向けた第2期目の守山市文化振興アクションプランの策定協力を行う。副委員長として参加。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「やましな山科駅前陶灯路」の運営	木下達文 小辻寿規	京都市山科区	約80名	駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今回は商店街イベント（スタンプラリー等）も実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	山科検定の運営協力	木下達文	山科区	なし	山科区が実施するご当地検定の全体計画についての助言等を行う。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	草津市文化振興基本計画重点プロジェクト策定協力	木下達文	滋賀県草津市	なし	草津市が昨年度作成した文化振興基本計画に基づく重点プロジェクトの策定協力を実施。委員長として参加。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	大庄屋諏訪屋敷運営懇談会協力	木下達文	滋賀県守山市	なし	守山市に開館した古建築の文化施設の今後の運営に関する。委員長。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都駅大階段駆け上がり大会への協力	木下達文	和歌山県 那智勝浦町	12名	例年京都駅で行われるイベントへの協力。大会参加および地域観光PR協力。今年度は走者を学内より公募することにより、広く学内広報を意識した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	協働型地域振興パンフレットの制作	木下達文	和歌山県 那智勝浦町	15名	大学のゼミ合宿等の振興を目的とした協働型パンフレットの制作。ゼミ生による内容およびデザイン評価等を行う。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	安土城再建プロジェクト協力	木下達文	近江八幡市	なし	近江八幡市安土町において取り組まれている安土城再建プロジェクトを実施する「安土城再建を夢見る会」の運営サポートを中心に行う。顧問として参加。滋賀県立安土城考古博物館運営懇談会委員。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	滋賀県内における博学連携事業への協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県の文化政策（主に博学連携事業）を担う中間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」の事業協力を行う。理事。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	KYOTO 駅ナカアートプロジェクト	河野良平	京都市山科区	約25名	京都市交通局主催による地下鉄・樹辻駅改札周辺の壁面デザインプロジェクト
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	やましなGOGOカフェの運営デザイン	小辻寿規	山科区	7名	山科区が実施する区民交流イベントに関する企画・運営の協力。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	文化芸術による地域貢献プロジェクト	小辻寿規	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団・京都市東部文化会館	5名	京都市音楽芸術文化振興財団のアウトリーチ活動に参加し、提案を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	醍醐中山団地陶灯路	小辻寿規	醍醐中山団地	約30名	学生会であるまちづくり研究会が醍醐中山団地と連携して、学まちコラボの助成金を獲得し、中山団地で初となる清水焼の絵付け体験や陶灯路を実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	鴨川府民会議協力	小辻寿規	京都府	なし	鴨川府民会議メンバーとして、鴨川等の河川環境の整備及び保全に関する事項について審議。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都市北区民まちづくり提案支援事業協力	小辻寿規	京都市北区	なし	北区民まちづくり提案支援事業の審査員として北区におけるまちづくり活動の審査を行なった。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都府生涯学習協力	小辻寿規	京都府	なし	京都府生涯学習審議会委員として、京都府の生涯学習について審議。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	兵庫県人権啓発協力	小辻寿規	兵庫県	なし	兵庫県人権啓発協会人権研究専門委員会委員として人権政策について提言。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	こだわり市場プロジェクト	谷口知司	京都市	約35名	こだわり市場ホームページならびに冊子の運営及び制作。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	修学旅行プロジェクト	谷口知司	京都市	約35名	おいでやす京都ホームページに関する取材および運営。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	洛和会ヘルスケアシステムと連携した高齢者ツーリズム	谷口知司	京都市	約20名	洛和会ヘルスケアシステム介護事業部と連携して、こだわり市場冊子を利用した高齢者向けツアーを企画し実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	山科VRマッププロジェクト	谷口知司	京都市山科区	約20名	山科区の寺社仏閣を中心とした観光資源をVRマップにし、配布した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	榎原団地におけるDIYプロジェクト	土井脩史	京都市住宅供給公社 榎原団地	約25名	京都市住宅供給公社が管理する榎原団地の1階空き住戸をコモンスペースにリノベーションするプロジェクト。学生によるDIYでコモンスペースの整備を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	堀川地域活性化を考える有志の会	土井脩史	京都市上京区 堀川団地界隈	2名	京都府・堀川団地の再生に関連するまちづくり活動の支援。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	現代ビジネス学部「エクステンション事業」に実施	福井弘幸	近畿二府四県	117名(参加者)	観光が目目される中、ツーリズム関係者を含め一般の方々や学生への理解の深耕や意識の向上を図るため、地域社会に貢献することを目的に「これからの京都の観光を考える」をテーマに実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	岩村田商店街再開発プロジェクト	松本正富	長野県佐久市 岩田村	13名	佐久市岩村田商店街再開発計画のモデルプランとコンセプトモデルを作成し、商店街の方々や市役所担当者に対してのプレゼンテーションを行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都市住宅審議会	松本正富	京都市	なし	公営住宅と民間賃貸住宅におけるセーフティネットのあり方についての審議会に委員として参加し、答申の取りまとめに協力した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	京都市都市計画局指定管理者選定等委員会	松本正富	京都市	なし	京都市都市計画局指定管理者選定等委員会に委員として参加し、私立浴場管理者の選定に協力した。

看護学部	看護学科	いちごカフェ	深山つかさ 田邊幹康 竹中友希	京都市山科区	ボランティア 2名	老人保健施設いわやの里において、毎月1回の「いちごカフェ」を開催している。いわやの里の利用者、介護をしているご家族、地域の方など参加いただいた。
看護学部	看護学科	第14回たちばな健康相談	社会貢献WG (深山つかさ 河原宣子 餅田敬司 常田裕子 伊藤弘子 鷺見舞 宗由里子 平井亮 十倉絵美 菊岡美樹 佐野真樹子)	京都橘大学	ボランティア 56名	大学祭の時に、教員と学生ボランティアで、身体計測、健康相談、骨密度測定等を実施している。今年度で第14回の実施になった。参加者は332名である。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地 (6/18)	社会貢献WG (深山つかさ 河原宣子 餅田敬司 常田裕子 平井亮 佐野真樹子)	京都市伏見区	ボランティア 8名	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で実施した。参加者は19名であった。
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地 (1/21)	社会貢献WG (餅田啓司 伊藤弘子 菊岡美樹 鷺見舞 宗由里子 十倉絵美)	京都市伏見区	ボランティア 6名	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で今年度第2回目を実施。
看護学部	看護学科	ふれあいまつり西野	田邊幹康 渡邊有紀	京都市山科区	1回生10名	西野学で開催されたふれあい祭りにて、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	京都ライトハウス祭り	深山つかさ	京都市北区	3回生53名	視覚障害者の理解を一般市民に普及させるための活動を視覚障害団体と実施した。
看護学部	看護学科	アイラブフェア	深山つかさ 松本賢哉 餅田敬司	京都市山科区	3回生名	視覚障害者の理解を一般市民に普及させるための活動を視覚障害団体と実施した。
看護学部	看護学科	蓬萊苑デイサービスセンター	深山つかさ 松本賢哉 餅田敬司	滋賀県大津市	3回生25名	利用者に対して血圧、骨密度、血管年齢などを測定し、その結果を説明するなどしてコミュニケーションを図り、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	安朱学区 健やか健康相談	深山つかさ 松本賢哉 堀妙子	京都市山科区	4回生5名	身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	第2回元気みなフェス!	深山つかさ 餅田敬司 平井亮	京都市伏見区	4回生5名	身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	ぶらっと伏見	深山つかさ 松本賢哉 菊岡美樹 城之内美	京都市伏見区	なし	来場者の健康チェックの機会として、本学は骨密度測定、血管年齢測定のサポートを行った。
看護学部	看護学科	福祉フェア	深山つかさ 田邊幹康	京都市山科区	4回生5名	来場者の健康チェックの機会として、本学は骨密度測定を行った。
看護学部	看護学科	山科区民まつり	松本賢哉 餅田敬司 竹中友希 鷺見舞	京都市山科区	3回生	祭りの来場者(100名)に健康チェック(骨密度測定、血管年齢測定)を実施。
看護学部	看護学科	女性の依存症者の回復支援セミナー	小西奈美	主に近畿圏内	なし	主に京都市内における女性の依存症者の回復支援を目的に結成した、当事者や依存症回復支援施設職員、行政や法務省関連職員、カウンセラー、教員など多職種による「京都女性の回復を支援する会」メンバーとして2018年8月セミナーを実施。90名程度の参加があった。
看護学部	看護学科	女性の依存症者の回復支援学習会	小西奈美	主に京都市内	なし	主に京都市内における女性の依存症者の回復支援を目的に結成した、当事者や依存症回復支援施設職員、行政や法務省関連職員、カウンセラー、教員など多職種による「京都女性の回復を支援する会」メンバーとして、5月、6月、10月、11月、12月に他者との境界やトラウマについての学習会を開催。10数名/回の参加があった。
看護学部	看護学科	がんサバイバーへのオンコロジータッチセラピー	小西奈美	主に京都市内	なし	毎月2回開催されている、がんサバイバーやその家族、支援者のコミュニティにおいて、4月、7月、10月、2019年1月にタッチセラピー(30分程度/人)実施。
看護学部	看護学科	新婚カップルのためのプレコンセプション教育(妊娠前教室)	上澤悦子他	神奈川県相模原市保健所	なし	2005年から年2回の相模原市保健所主催において、左記の健康教育を実施してきた。1回の参加者数平均は新婚カップル10組程度であるが、延べ約500名余りが参加し、不妊予防および特定不妊治療助成金の減少につながっていると評価されている。
看護学部	看護学科	がん生殖医療での共有意思決定支援における事例検討会	上澤悦子	関西地区	院生数名	2017年より大阪IVFクリニック看護部を中心に、関西の生殖医療機関やがん治療施設の不妊症看護およびがん看護の認定看護師、専門看護師を中心に事例研究会・勉強会を開催してきた。1回の参加者数は平均40名であり、継続的出席者もおり、総参加者数は180名であった。選択肢が多様にある意思決定における医療者と患者が共有できることでの成果は、関連学会で発表してきた。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	次世代育成看護研究会	遠藤俊子 上澤悦子 神崎光子 工藤里香 常田裕子 宗由里子 兵藤絵美 前田絢子	京都・大阪・ 滋賀	院生2名	周産期医療に関わる看護職を対象に、看護職者自身のエンパワーメントを支え、社会の要請に応えられる看護の質向上を目指し公開研修会を開催した。「がん・生殖医療における意思決定支援の実践」「周産期メンタルヘルスにおけるコミュニケーション」「社会的ハイリスク支援 若年妊産婦の母親役割獲得のための支援-事例検討を中心に-」「周産期看護のイノベーション～院内助産システムのめざすもの」の計4回実施し、のべ110名の参加があった。
看護学部	看護学科	First Gift	常田裕子 遠藤俊子	大津市民病院	なし	妊婦を対象に行っているファーストギフト(授乳に関する準備教室)の活動成果について、大津市民病院助産師と共に共同研究を行い、学会において発表した。

健康科学部	心理学科	守山市大型商業施設における来街者調査の実施	永野光朗 藤原勇	滋賀県草津市	学生7名	心理学科2回生科目「社会調査法(社会心理調査)」の履修者の中から参加者を募り、参加を希望した学生を中心に大型商業施設における来街者調査(守山市)を行った。62名分のデータが収集された。調査結果は守山商工会議所がすすめる小規模事業者経営支援計画に利用される予定である。
健康科学部	心理学科	草津市中心部における来街者調査の実施	永野光朗	滋賀県草津市	学生13名	心理学科3回生科目「マーケティング調査演習」の授業の一環として、JR草津駅東口近辺への来街者の意識や実態を明らかにするための来街者調査を近辺の商業施設4店舗において実施した。計180名分のデータを収集した。2月5日に草津市において報告会を開催する予定である。分析結果は草津市中心市街地活性化のために利用される予定である。
健康科学部	心理学科	(株)伊藤製作所のメンタルヘルス	日比野英子 仲倉高広	山科区	なし	伊藤製作所の従業員約60名を対象に、メンタルヘルスのチェックとその結果のフィードバック、および希望者に対する心理面談を77名(延べ人数)に行った。
健康科学部	心理学科	パパとママのこころ育て広場	濱田智崇 大久保千恵 井上裕樹	京都市・大津市	院生4名・ 学部生6名	心理臨床センター主催事業。地域の未就学児とその保護者を対象に、土曜日の午前中、心理臨床センタープレイルームなどでグループ活動を行った。子育ての悩みを共有したり、臨床心理士からの助言を行ったりし、今年度は8回実施。学生はボランティアとして参加し、終了後のカンファレンスで、子どもの発達やかかわり方などについて学習した。
健康科学部	心理学科	山科保健センター3歳児健診	濱田智崇	京都市山科区	なし	山科保健センターが実施する3歳3ヶ月児健診において、心理相談を担当した。発達障害の疑いや、保護者に子育て不安のあるケースに個別対応し、必要に応じて本学心理臨床センターの情報を提供した。
健康科学部	心理学科	大宅イクメンパパの会	濱田智崇	おおやけ こども園	なし	大宅保育園主催の子育て支援講演会で講師を務めた。今年度は大宅イクメンパパの会として、3回実施した。
健康科学部	心理学科	こころなごみカフェ	中西龍一 ジェイムス朋子 濱田智崇	醍醐中山団地	学生5名	醍醐中山団地内の本学地域連携センター分室・交流スペースにおいて、「こころなごみカフェ」を開催した。今年度は3回開催している。主に高齢者の住民と、心理学科の学生が語り合うことをメインとした内容であり、カウンセリングについて学んだ学生が、その傾聴スキルを実践で生かし、語りを受け止めることの心理的効果を実感する機会となった。
健康科学部	心理学科	臨床心理セミナー・事例検討会	菅佐和子 松下幸治 田中芳幸 ジェイムス朋子	京都・滋賀・ 大阪等	大学院生4名	心理臨床センター主催事業。臨床心理士や周辺領域の専門職を対象とするリカレント講座を下記題目で2回実施した。「精神分析的心理療法入門」には14名参加。3月2日予定の「DV、児童虐待、いじめ、各種ハラスメント等々、『今ここにある危機』に介入しつつ、内面への関与を行うには」には15名参加の予定である。
健康科学部	心理学科	対人援助職セミナー	松下幸治	京都・滋賀・ 大阪等	大学院生4名	心理臨床センター主催事業。対人援助職を対象とし、職場の実践で役立つ臨床心理学を体験的に学ぶ機会を提供した。6回実施し、のべ52名の参加があった。
健康科学部	心理学科	京都市保育園連盟障がい児保育研修会	日比野英子	京都市	なし	保育士約200名を対象に「乳児の心の発達と保護者支援」という題目の講義を行った。
健康科学部	心理学科	野洲市子どもの健康づくり教室講師	日比野英子	滋賀県野洲市	なし	野洲市の子育て支援講座「子どもの健康づくり教室『子どもの発達』」。主に乳幼児の心の発達についてわかりやすく説明して、母親の理解を深め、育児への不安を緩和し、母子の豊かな交流を促す講座である。
健康科学部	心理学科	京都市保育園連盟巡回相談	日比野英子	京都市	なし	京都市内の私立保育園7カ園において、保育コンサルテーションを行った。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	心理学科	山科区保育園協議会・京都橋大学心理臨床センター共催統合保育をめぐる地域連携活動第4回「統合保育の現状と地域連携」	日比野英子	京都市山科区	健康科学研究科臨床心理学コース院生2名、心理学科生1名	統合保育を実践する保育士と、子どもの発達・保育・療育に関わる研究者ならびに地域の保健師が交流し、統合保育の現状への理解を深め、子育て支援をめぐる情報・経験を共有し、子どもの発達を支える地域連携の可能性を追究した。
健康科学部	心理学科	保育コンサルテーション	日比野英子 濱田智崇 宮井研治	京都市山科区・滋賀県草津市	なし	草津市立保育所・幼稚園・こども園合計13か園にて、統合保育に関するコンサルテーションを実施した。
健康科学部	心理学科	不登校児の支援ボランティア	菱田一仁 仲倉高広	兵庫県立但馬やまびこの郷（不登校児童生徒の支援施設）	学生9名	不登校児童生徒を対象とした4泊5日の集団宿泊体験活動に参加し、その活動を通して、不登校児童生徒の学校生活への適応や社会的自立に向けた支援を体験的に学んできた。また、この活動に参加する学生に対して、事前研修と事後報告会を実施し、その中で、複数の教員と対話することを通して、彼らの心理臨床学の体験的な学びをさらに深めるための作業を行った。
健康科学部	理学療法学科	守山市介護予防事業「健康のび体操」の効果検証	宮崎純弥	滋賀県守山市	8名	守山市自治体3地区の62名を対象に9週間「健康のび体操」を実施して頂き、その前後での身体機能を測定した。その結果、全ての測定項目で改善が認められ、参加者からは、今後も続けていきたいとの声が多数聞かれた。
健康科学部	理学療法学科	野洲市在住高齢者の健康増進に向けた調査研究	村田仲他6名	滋賀県野洲市	19名	253名の野洲市在住の高齢者を対象に、握力や足の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その結果を踏まえて、高齢者自身が健康度を体力年齢でチェックできる「高齢者向け元気はつつサポートブック」、ならびに高齢者の介護予防対策に有効と思われる健康体操を収録した「たちはな健康体操DVD」を作成し、野洲市および参加高齢者に配布した。
健康科学部	理学療法学科	腰痛改善・予防教室	安彦鉄平他1名	京都市伏見区	12名	腰痛を有する地域在住者22名を対象に、腰痛を改善させる身体・心理的アプローチを合計6回実施した。その結果、腰痛は有意に軽減した。この要因は、身体機能ではなく、活動量および心理機能の改善が認められたためと考えられる。
健康科学部	理学療法学科	たちはな健康体操運動研修会	安彦鉄平	滋賀県野洲市	なし	野洲市在住の転倒予防サポーターを対象に、たちはな健康体操DVDの作成意義および体操の説明会を実施した。参加者からは、体操に取り組んでみようという好意的な意見が多かった。
健康科学部	理学療法学科	たちはな健康体操運動研修会	安彦鉄平	京都市山科区	なし	山科区在住の高齢者12名を対象に、たちはな健康体操DVDの作成意義および体操の説明会を実施した。多くの方に、健康のためにも身体機能だけでなく認知機能も維持する必要があることをご理解いただいた。
健康科学部	理学療法学科	醍醐地区在住高齢者の健康に向けた調査研究「たちはな健康体操」の効果検証	安彦鉄平他5名	京都市伏見区	20名	35名の醍醐地区在住の高齢者を対象に、握力やバランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その後、「たちはな健康体操」についての研修会を2回行った。今後は、公園体操にたちはな健康体操を利用していただけ、一年後に介入後の調査を行う予定である。
健康科学部	理学療法学科	要介護高齢者を対象とした身体機能の測定	村田仲他5名	滋賀県大津市	19名	2018年8～9月に、大津市石山のデイケアに通う要介護高齢者69名を対象に、握力や足の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能に関する項目と、体組成・筋厚・筋硬度・骨密度など身体構造面に関する項目の測定、また認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その結果を踏まえて、対象者に結果を紙面・口頭でフィードバックし、自身の身体・心理機能に対する理解を深めてもらう機会となった。
健康科学部	理学療法学科	大宅児童館における子どもの口コモ調査およびダンス指導	安彦鉄平他5名	京都市伏見区	20名	大宅児童館の小学生90名を対象に、身長、体重、骨格筋量、骨密度、握力、立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げ、上体起こしなどの身体機能に関する項目と運動への意欲や睡眠時間などの質問紙検査を実施した。学年が上がるにつれて、運動への意欲と体格への関連性が明らかになった。
健康科学部	理学療法学科	わかあゆ呼吸ケア研究会	堀江淳他5名	大学近隣医療機関	約250名	全4回シリーズ+特別講演で実施した。第1回呼吸の解剖・生理、検査データの解釈、第2回慢性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第3回急性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第4回在宅酸素療法・非侵襲的人工呼吸療法（座学と実技）のテーマで開催した。毎年、多くの医療従事者の参加があり、近隣では「恒例行事」としての地位を確保しつつある。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法学科	自立活動アドバイザー 事業外部専門家	原田瞬	大阪府堺市	なし	大阪府堺市内の特別支援学校、小中学校において、巡回相談という形態で、対象児童の教科学習、自立活動の支援を行った。
健康科学部	作業療法学科	ものづくり教室	近藤敏 佐川佳南枝 永井邦明	京都市	なし	NPO法人シーズネットの会員と協力し、京都橘大学の実習室を活用して認知症予防を主目的とした「ものづくり教室」の立案を行った。実施に当たり、NPO法人シーズネットの会員を対象として「認知症予防に役立つ作業療法」に関する講義を行ったり、文化祭を開催して「出前教室」を行った。大学の作業療法等を利用したものづくり教室では70代から80代の高齢者中心に9名の参加者があり、七宝焼きと革細工の班に分かれてネックレスやブローチ、タイピン、爪切り、キーホルダー等を製作。制作後はお茶の時間に近藤敏教授から「元気高齢者10箇条」のレクチャーも行った。
健康科学部	作業療法学科	認知症サポーター養成講座	永井邦明	京都市金閣学区	なし	金閣学区の民生委員を対象とする「認知症サポーター養成講座」の運営に参加した。当日の運営にファシリテーターとして携わり、グループ討議の補助を行った。
健康科学部	作業療法学科	オレンジcommons (認知症カフェ)	小川敬之 永井邦明	同志社大学京町家キャンパス 「江湖館」付近	なし	オレンジcommons(認知症カフェ)の取り組みに参加した。1名の対象者を担当し、会議では作業療法士の立場から助言を行った。
健康科学部	作業療法学科	おいでやす食堂	永井邦明	京都市西院付近	なし	西院老人デイサービスセンターで実施されている「おいでやす食堂(子供食堂)」のボランティア活動に複数回参加し、責任者やボランティアスタッフと意見交換を行った。
健康科学部	作業療法学科	RUN伴2018	永井邦明	京都市西院付近	なし	RUN伴2018に京都市実行委員として運営に携わった。RUN伴は、全国すべての町が、認知症になっても安心して暮らすことのできる地域になることを目指し、認知症の人と一緒に行うタスキレーである。認知症の人が地域の人と出会うきっかけになったり、近所で顔見知りの関係ができあがることで安心して外出できるような、地域のあり方が変化することを目的として開催された。
健康科学部	作業療法学科	sitteプロジェクト	永井邦明	京都市西院付近	なし	京都市西院老人デイサービスセンターで実施されている「sitteプロジェクト」の運営に携わった。sitteは参加を希望する利用者が週1回1時間、有償ボランティアを実施する活動である。活動内容はデイサービスが企業や発注者から仕事を請け負い、依頼された作業を利用者がこなした場合に利用者自身が報酬を授受するといったものであり、利用者が仕事を通して社会と繋がることを目指した取り組みとなっている。加工された製品は、地域の店舗で販売され、利用者は新聞社から活動に関する取材を受けた。
健康科学部	作業療法学科	関西・認知症にやさしい図書館プロジェクト	小川敬之 永井邦明	大阪大学 大阪府立中央図書館	なし	「関西・認知症にやさしい図書館プロジェクト」実行委員会の実行委員として、大阪大学および中央図書館で開かれたセミナーの企画・運営補助に携わった。認知症にやさしい図書館プロジェクトは、認知症になっても住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるまちづくりを目指し、図書館の場や機能を活用して認知症の人やその家族の課題解決を図るプロジェクトを進めている。
健康科学部	作業療法学科	認知症サポーター養成講座	永井邦明	京都市金閣学区	30名	金閣学区の民生委員を対象とする「認知症サポーター養成講座」の運営に参加した。当日の運営にファシリテーターとして携わり、グループ討議の補助を行った。
健康科学部	作業療法学科	認知症サポーター養成講座	小川敬之	京都市役所 (交通局高速鉄道部営業課)	42名	京都市の地域包括支援センター、京都市リハセンターと共同で、交通課の職員に「認知症であっても利用しやすい交通機関の利用方法」を考えてもらうためのサポーター養成講座を実施した。
健康科学部	作業療法学科	NPOシーズネット京都終活セミナー「いきいきわくわく」脳のための健康のために	小川敬之	京都市出町柳	18名	高齢者クラブ「NPO法人シーズネット京都」において、「日頃から脳の健康を保つためのヒントや人との関わりが脳の健康にいかにか」をテーマに教育講演を行った。
健康科学部	作業療法学科	第5回高齢者と若者の縁のある住まい方フォーラム：次世代下宿「ソリデール」	小川敬之	京都学・歴彩館	100名	京都市内高齢者、大学生に向けて、高齢者宅の空き部屋を活用して大学生が低賃金で下宿し、少子高齢化社会に向けた地域共生のトライアル実践の紹介と意味付けについてシンポジウム形式で紹介した。
健康科学部	作業療法学科	「認知症」と生きる：地域の中で、その人らしく	小川敬之	東京都練馬区	85名	市民に向けた認知症に関する啓発講演を行った。
健康科学部	作業療法学科	京都府認知症初期集中支援チーム連絡会	小川敬之	京都府医師会館	88名	地域包括支援センターや看護、介護、ケアマネジャー、作業療法士などを対象とし、京都府内の認知症初期集中支援の進捗状況の報告とGood Practiceを聞くことで、自分の地域の活動の参考にするディスカッション形式の研修を行った。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法 学科	病院勤務の医療従事者 向け認知症対応力向上 研修	小川敬之	大阪市大阪工業 大学常翔ホール	420名	病院勤務の医療職に向けた認知症の理解と具体的 な対応方法の教育講演
健康科学部	作業療法 学科	滋賀県理学療法士会主 催東近江ブロック研修 会	小川敬之	東近江	70名	PT、OT、ST、リハ学生に向けて、認知症の理解と 地域における支援についての教育講演を行った。
健康科学部	作業療法 学科	地域サポーター養成講座	小川敬之	向日市 社会福祉会館	35名	地域住民や保健師を対象に、高齢者の見守りや話 し相手で訪問などを行う地域サポーターの養成講 座を開催した。
健康科学部	作業療法 学科	認知症患者の心をつな ぐ地域連携 (web講演)	小川敬之	全国の病院	約3000名	日本地域統合人材育成機構、第一三共製薬の共催 で地域支援を行っている保健師とコラボ講演を 行った。Web講演で全国に配信。
健康科学部	作業療法 学科	H30年認知症官民連 携実証プラットフォーム プロジェクト第3回ラ ウンドテーブル	小川敬之	AMED本部	約50名	
健康科学部	作業療法 学科	大阪大学 サマースクール	小川敬之 永井邦明	大阪大学	約40名	台湾看護学生、大学院生を対象都市で日本にお ける地域リハビリテーションの現状報告と実技を 行った。
健康科学部	救急救命 学科	山科駅前陶灯路救護	西本泰久	京都市山科区	13名	山科駅前で開催されたたましな駅前陶灯路にて救 護活動を行った。
健康科学部	救急救命 学科	大阪マラソン救護	西本泰久	大阪府	20名	第8回大阪マラソンの救護に参加した。マラソン コースの沿道救護を行った。
健康科学部	救急救命 学科	西野小学校BLS	黒崎久訓	京都市	10名	教員を対象としたBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命 学科	爽快健康ウォーク 2018	黒崎久訓	京都市、滋賀県 大津市	20名	地域住民と共に健康増進と交流を目的として、学 生による救護体制のもと山科から大津港までの ウォーキングを行った。
健康科学部	救急救命 学科	京都橘大学 七夕陶灯路	黒崎久訓	京都橘大学	10名	京都橘大学で開催された七夕陶灯路で救護活動 を実施した。
健康科学部	救急救命 学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療セン ター・八尾空港	9名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修 に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療セン ター・八尾空港	3名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修 に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療セン ター・八尾空港	5名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修 に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療セン ター・八尾空港	13名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修 に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	日本臨床救急医学会 PEMECコース	福岡範恭	京都府	8名	急病人に対する現場アプローチを習得するコース の補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命 学科	JESA主催 PEMECコース	福岡範恭	京都府	10名	急病人に対する現場アプローチを習得するコース に救急隊役として参加した。
健康科学部	臨床検査 学科	臨床検査を支える京都 発の世界技術	米田孝司 兜森修 中村竜也 内堀恵美 藤原麻有 竹下仁	京都市	1学年全員 (75名)	京都には臨床検査関連の試薬や分析装置を製造す る会社が多く存在する。これらの企業を見学し、 各企業の特徴や臨床検査との関係について学び、 本学と企業とが地域に密着した研究をするため の方法と計画を考える。そして、将来一緒に臨床 検査の最新技術を開発する。

広報誌「つながる」2018年度 CONTENTS

地域連携センターでは、地域貢献活動や公開講座や地域に関連する研究などを紹介し、発信する媒体として、年2回広報誌「つながる」を発行しています。

「つながる」第13号 2018年10月31日発行

- Interface 実践の知 第13回
「産学公連携の先進地」京都から「超快適」スマート社会を創出
西村 敏弘 京都府商工労働観光部ものづくり振興課 課長
- 第10回橋セッション
異文化を学び、考え、そして食べる。
「学まち連携大学」促進事業報告会
「山科警察署との包括協定による、警察官を対象とした英会話教室について」
アンガス ノーマン 本学国際英語学部教授
エリス メグ 本学国際英語学部助教
「学校地域調査(海外)」における国際交流
ータイ・チェンマイの小学校との交流を通してー
倉持 祐二 本学発達教育学部教授
「醍醐中山団地での学生による陶灯路イベント
みんなで灯そう!中山のあかりで
ー醍醐中山団地活性化プロジェクト」
現代ビジネス学部まちづくり研究会(学生団体)
「看護学科学生による醍醐中山団地での
生活支援プログラム「看護お助け隊」について」
堀 妙子 本学看護学部教授
「心理学科学生による醍醐中山団地での
交流プログラム「こころなごみカフェ」について」
濱田 智崇 本学健康科学部准教授
「山科駅前サテライトたちろボ山科」での地域連携活動について
たちろボ学生委員会「たちろボたち」(学生団体)
- 京都モダニズム建築を訪ねて 第23回
京都教育大学 2号館 A棟
河野 良平 本学現代ビジネス学部准教授
- Interview ともに 第13回
誰もがもっと軽やかに、もっと自由に動ける社会をめざして
人の暮らしに寄り添うメルセデス・ベンツ「smart」のクルマづくり
河野 綾 メルセデス・ベンツ日本(株)広報室室長
スマート課マネージャー

Interview ともに 第13回
誰もがもっと軽やかに、もっと自由に動ける社会をめざして
人の暮らしに寄り添うメルセデス・ベンツ「smart」のクルマづくり

CONTENTS

京都教育大学
地域連携センター
つながる Vol.13

13

「つながる」第14号 2019年3月31日発行

- 京都モダニズム建築を訪ねて 第24回
帷子ノ辻駅ビル
河野良平 本学現代ビジネス学部准教授
- 第11・12回橋セッション
「学まち AWARD」
作業療法学科
心理学科
歴史遺産学科
児童教育学科
経営学科
都市環境デザイン学科
看護学科
国際英語学科
理学療法学科
日本語日本文学科
救急救命学科
臨床検査学科

第11回橋セッション
「学まち AWARD」

TACHIBANA

CONTENTS

京都教育大学
地域連携センター
つながる Vol.14

14

2018 京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）
（2018年4月～2019年3月）

発行日 2019年3月31日

発行 京都橘大学 産学公地域連携推進機構 地域連携センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

TEL：075-574-4342 FAX：075-574-4149

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp

E-mail：occ@tachibana-u.ac.jp



育ちあう、響きあう

京都橘大学